

第2グループ【防災・生活安全分野】

防災・生活安全分野

みなとタウンフォーラム
第2グループ

第2グループ[メンバー]

大木 健司	工藤 裕美	国弘 和将
鈴木 達朗	関野 幸彦	田村 水咲
福嶋 仁	本多 由美	

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

提言にあたって

第2グループ【防災・生活安全分野】

私たち第2グループでは、①「区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り」②「災害に関する個人の意識改革」③「生活安全（防犯）における抑止力向上」の3つのテーマを設定しました。その上で、港区という地域特性を踏まえた課題、意見、危機感などについて具体的な事例を含めた充実した議論が行われました。

区職員への質疑応答も活発に実施され、防災・生活安全（防犯）に関して、既に多くの施策が検討され、情報が整備されていることも改めて認識することができました。その反面、そうした施策等が区民一人ひとりに浸透していないといったことも明らかになりました。

社会変化が与えるテーマへの影響

年々、防災、生活安全（防犯）の分野を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。自然災害は広域化、激甚化し、多様な人が存在するこの港区での避難行動や防災活動のあり方を再考すべき時期になっています。

また、国際化やデジタル化の進展により犯罪が多様化し、その手口が巧妙になってきている中、自分や家族を守っていくためにどうしたらよいのかといったことも考えなければなりません。

テーマ①「区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り」

防災・減災分野に関しては、2つのテーマについて議論を重ねました。一つ目は「区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新

たな仕組み作り」です。

今まで行政からの情報は、地域コミュニティを通して、各家庭、個人へ共有されることが多くありました。しかし、近年のライフスタイルの多様化や、集合住宅の増加、再開等が顕著な状況を踏まえると、新たな支援や仕組みづくりが必要であると考えました。

テーマ②「災害に関する個人の意識改革」

二つ目は「災害に対する個人の意識改革」です。自助・共助・公助といった取組をバランスよく実現していくためには、まずは、個人が平時より防災・減災への意識を高めることが重要です。そのために、自助・共助の取組強化につながる学習機会の創出や、平時から個人の防災意識を高められる取組を施策の方向性として位置づけました。

テーマ③「生活安全（防犯）における抑止力向上」

生活安全（防犯）分野については、「生活安全（防犯）における抑止力向上」をテーマに設定しました。近年の環境変化により犯罪が多様化・広域化している中、犯罪による被害の防止、抑止力向上のための施策を検討しました。

提言の実現に向けた想い

この議論がこの提言書で終わりではなく、今後の勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論ができました。

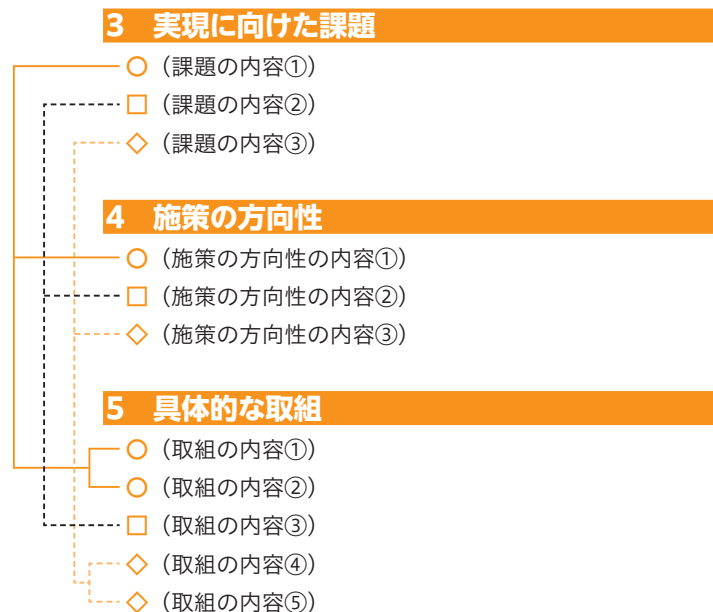
提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもっていきます。

提言の体系

具体的な取組	
【テーマ1】 区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合住宅や地域における防災・減災対策に関する取組の支援（自助、共助、公助） ● 区民や企業とのつながりづくり（共助） ● 情報発信・管理の充実・強化（自助、公助）
【テーマ2】 災害に関する個人の意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な属性やフェーズに応じた個人の意識改革（自助・公助） ● 誰もが参加しやすい防災訓練（自助・共助・公助） ● 平時における効果的な意識啓発（自助・公助）
【テーマ3】 生活安全(防犯)における抑止力向上	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信・情報開示、意識改革 ● 人と人とのつながりによる抑止力向上 ● インフラ整備による抑止力向上

提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号（○、□、◇等）によって関連性を明らかにしています。



第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・サイエンス分野】

第4グループ
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「防災を自分のこととして捉え、個の自立と互いの助け合いによって安心感のあるまち」

デジタルの力などを活用しながら、災害時に能動的に動ける人を増やすとともに、平時の緩やかなつながりから支え合える関係づくりを進め、自分の命と互いの命を守ることができるまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

地域コミュニティの希薄化

- 従来の地域コミュニティ活動に参加する人が減少し、地域とのつながりが希薄化している。
- 区民同士のつながりが少なく、「個」の時代ともいえる状況になった。
- 再開発等が進む中、転出入により地域のことを知らない人が増えてきている。
- ライフスタイルが多様化し、区民の地域との関わり方や必要とする情報が変化している。
- SNSなど情報伝達手段が進化し、人と人とのつながりもアナログからデジタルへ移行している。

働き方の多様化

会社に属さずに働く人やリモートワークが普及するなど、働き方が多様化している。

多くの外国人の存在

港区は外国人の人口割合が約一割を占めている。

防災活動を担う区民の高齢化

町会等の地域コミュニティにおいて、防災活動を担う区民の高齢化が進んでいる。

自然災害の発生

地震、台風、水害など、全国的に大きな被害をもたらす自然災害が発生している。

3 実現に向けた課題

- 区民同士のつながりは大切な一方、町会等の既存の地域コミュニティに加入するには心理的なハードルがあるなど、地域におけるつながりの手段が少なくなっている。
- 災害時を含め、区民が防災において果たす責務のようなものが不明確で行動しにくい。区と区民、地域コミュニティにおける区民同士のつながりもアナログからデジタルへの移行期である。町会等の既存のコミュニティだけでなく、企業やアプリなどを活用して区と区民、区民同士をつなげる仕組みが十分ではない。
- 人口の約一割を占める外国人を対象とした防災の取組の強化が求められる。
- 災害時における水の確保など、生活に密接に関わる課題への対応が不可欠である。防災対策には、民間企業と連携して対応していくことが求められる。

4 施策の方向性

- マンション（賃貸・分譲問わず）などの集合住宅や地域における防災・減災対策の取組を支援する。
- ◇ 地域コミュニティのあり方が変化していくなか、既存のコミュニティ以外でも新たなコミュニティを形成し、積極的に区民や企業をつなげる仕組みを構築する。
- △ 新たなコミュニティと行政との連携を強化し、資源のさらなる活用へと結びつけるために、情報発信・管理を充実・強化する。

5 具体的な取組

○集合住宅や地域における防災・減災対策に関する取組の支援(自助、共助、公助)

- ①マンション管理組合や企業、飲食店、学校などのネットワークや、災害時のライフラインの確保を強化する。
- ②個人と行政がつながることができる「バディシステム」やアプリなど、平時から災害時を意識した区と区民のつながりの仕組みを構築する。
- ③防災ボランティアや地域サポーター制度など、区民間における災害時の助け合いの仕組みを構築する。

◇区民や企業とのつながりづくり(共助)

- ①卒業生（OBやPTA等の平時のつながり）や同窓会（またはその発想、視点）を参考に、災害時に活用できる共助のためのネットワークを構築する。
- ②既存の地域コミュニティの枠組みにとらわれず、多様な地域住民（子ども、大人、外国人等）や企業など、地域全体で楽しく、気軽に参加して学べる防災訓練の実施と参加を促進する。
- ③企業が有する防災に関するノウハウや知見を活用し、区と企業が連携を進めることで地域の防災力を向上させる。

△情報発信・管理の充実・強化(自助、公助)

- ①情報の受け手である区民のライフスタイルが多様化していることを踏まえ、携帯電話、SNS、デジタルサイネージ、アプリの活用など、世代、属性を考慮した区の情報発信と、区民の情報アクセス方法を確立させる。
- ②行政手続き等で窓口を訪れた区民に対して、防災・減災に関連する情報配布や情報ツール（区の公式LINE等）をプッシュ型で周知するなど、防災に関する取組の周知や注意喚起について積極的なアプローチを行う。
- ③港区の防災のホームページについて、他自治体などの先進事例を参考にしながら、防災に関する情報をより見やすくするなど、受け手である区民に的確な情報が届けられるように工夫する。
- ④公共施設や駅などに防災・災害支援情報（区のホームページ等）などにアクセスできる場所を設けるなど、防災に関心を持ってもらうきっかけづくりを行う。
- ⑤区の情報について、必要な人にどのように届いているかを把握（例：区の制度の申請者に対し、どの広報媒体（広報紙、SNS等）で情報を得たか確認）することで効果的な情報発信につなげる。

- ⑥ (マンション敷地内にある防火用水について、マンション管理組合、町会の中で、どこが管理、設置している設備なのか不明確な状況が続いていた。区に確認したところ、区の管理物であると判明した事例があったため) 災害時に有効的に活用できる防災設備について、設置状況等を区、管理者、利用者が確実に把握し、関係者と情報を共有する。

6 参画と協働の推進

- ① 「集合住宅や地域における防災・減災対策に関する取組の支援 (防災ボランティア等)」、「区民や企業とのつながりづくり (防災訓練への参加等)」及び「情報発信・管理の充実・強化 (防災情報の効果的な発信等)」の取組に、区民や企業等がより関わることで、参画と協働を推進する。
- ② 【テーマ 1・2・3 共通事項】 多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる。
- ③ 【テーマ 1・2・3 共通事項】 提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果 (成果指標、公開可能な数値等)などを測定し、区の取組状況を「見える化」する。
- ④ 【テーマ 1・2・3 共通事項】 提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する。
- ⑤ 【テーマ 1・2・3 共通事項】 区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する。

災害に関する個人の意識改革

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

テーマ1と同じ

2 踏まえるべき社会変化

テーマ1と同じ

3 実現に向けた課題

- ・ 平時から個人で防災や減災に関する情報を積極的に取りに行き、主体的に行動できるような意識改革が求められる。
- ・ 区からの情報の効果的な伝え方も工夫が求められる。
- ・ 災害時に相談する相手や家族がいない場合、困ったときにどうしたらいいかわからない。

4 施策の方向性

- 多様な属性（集合住宅、単身世帯、高齢世帯、在勤者等）やライフスタイルに合わせ、個人が災害時における自分の命と互いの命を守るための行動がとれるよう、自助・共助の取組の強化につながる学習機会の創出を推進する。
- △ 日常から気軽に防災情報に触れられるよう、既存の防災・減災コンテンツなどを活用しつつ、防災に関連する遊びの要素を盛り込んだイベントや、誰もが参加しやすく楽しい防災訓練など、平時から個人の防災意識を高める取組を推進する。

5 具体的な取組

○ 多様な属性やフェーズに応じた個人の意識改革(自助・公助)

- ① マンション等の集合住宅、単身世帯、高齢世帯、外国人、中小企業等の属性やフェーズ（例：発災後〇日間）、状況（ネットワーク障害、ライフライン寸断等）に応じた防災・災害プレーブックを作成するなど、防災に関する個人の意識改革を進める。
- ② 災害時における個人に合った想定行動プランの作成を支援し、区や防災士からアドバイスをもらえるような仕組みを構築するなど、防災に関する個人の意識改革につなげる。

△誰もが参加しやすい防災訓練(自助・共助・公助)

- ①区の防災訓練を汎用パート（幅広い層に共通する内容）と個別パート（子ども向け、外国人向け、企業向け等）に分けるなど、参加者の属性を意識した内容となるよう、工夫して実施する。
- ②平時から防災について考える機会を創出するため、アプリや趣味、遊び、コミュニティ活動の中に防災の要素を取り入れた啓発を行うなど、防災以外のテーマと防災を掛け合わせ、防災に関する意識向上を図る。
- ③民間企業と連携し、区民が楽しみながら参加できる防災イベント（例：防災スタンプラリー、ARを使用した防災訓練等）を企画・実施するなど、民間企業の企画力やコンテンツを活用した啓発を推進する。

△平時における効果的な意識啓発(自助・公助)

- ①学校教育において防災教育を充実させる。
- ②災害時のトイレ対策や水確保の重要性など、日常生活と密接に関わる防災対策を周知・啓発し、防災意識向上を図る。

6 参画と協働の推進

- ①「多様な属性やフェーズに応じた個人の意識改革（個々の状況に合った防災意識の向上等）」、「誰もが参加しやすい防災活動（防災活動への参加等）」及び「平時における効果的な意識啓発（防災教育等）」の取組に、区民や企業等がより関わることで、参画と協働を推進する。
- ②【テーマ 1・2・3 共通事項】多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる。
- ③【テーマ 1・2・3 共通事項】提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」する。
- ④【テーマ 1・2・3 共通事項】提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する。
- ⑤【テーマ 1・2・3 共通事項】区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する。

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「国籍や老若男女問わずあらゆる人が、リアルでもオンラインでも安全で安心に暮らせるまち」

日常の防犯に関することや被害に遭ってしまったときに、いつでも相談できる人がいる、誰に相談して良いかわかるような、つながりがあるまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

地域コミュニティの希薄化

核家族の増加などの影響で地域との関わり方が低下した。以前はご近所などの地域の目によって抑止されていたことが、今では何か起きても注意しにくい社会となっている。

インターネット(SNS等)上における広範囲のつながり・デジタル化(デジタル社会が浸透したことに対する影響)

- SNSの普及などにより、インターネットを通じて顔の見えない人とのつながりが増えた。結果、SNSを利用した犯罪やフィッシングなどのデジタル犯罪が増加している。
- デジタルデバイド(情報格差)によって、デジタル弱者が犯罪被害に遭いやすくなっている。
- Eコマース普及拡大により置き配が増加したことで、新たな盗難被害リスクが高まっている。

犯罪の国際化

犯罪組織が国際化・組織化(企業化)しており、犯罪が多様化し、その手口が巧妙になっている。

多くの外国人(区民、旅行者)の存在

外国人居住者や旅行者が多いため、外国人も犯罪被害に遭うリスクが増える。

区内の人口増加

- ファミリー層が増えたことに伴い、子どもが被害にあう可能性が増える。
- 子どもを対象に不審者に声を掛けられるリスクが懸念される(刑法犯認知件数に計上されていない「声かけ」などの件数)。

その他

- 一人乗りの電動キックボード等のモビリティ普及による、公共の場所でのトラブルの危険性がある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止によるコミュニケーションの不足、ストレスの増加、収入等の影響による生活が変化している。

3 実現に向けた課題

○情報発信・情報開示、意識改革

- 犯罪・防犯に対して身近な情報が入ってこないため、自分のこととして考える機会が少なく、防犯意識が低くなっている。
- 情報弱者が増えている（デジタルデバイド）。サイバー攻撃など手口が巧妙化している。
- 情報コンテンツが多すぎるため、情報の受け手が多様化している。そのため、既存の区の広報では伝わりづらい。

△人と人とのつながり

- 人とのつながりが希薄化し、相談する先がわからない。
- 他者の被害を他人事として捉えるという考え方が増えている。
- 人の目が見えるような、町会などを活かした地域密着の防犯体制が必要である。

□インフラ整備

- 防犯カメラなどの適度な抑止力が必要である。
- 事前の抑止につながるような仕掛けが必要である。
- 高齢者対策など、アナログ的な認知・周知方法が必要である。外国人に対応した支援内容を検討する必要がある。

4 施策の方向性

○情報発信・情報開示、意識改革による抑止力向上

犯罪・防犯に関する情報を多様な受け手に伝わるよう発信方法を工夫する。

△人と人とのつながりによる抑止力向上

平時から安全に安心して暮らせるよう、顔の見える関係を築く。

□インフラ整備による抑止力向上

既存の防犯設備に加え、新たなインフラも整備する。

5 具体的な取組

○情報発信・情報開示、意識改革

- ①防犯に関する注意喚起や防犯対策などの情報を一元化し、区の情報媒体に掲載するとともに、区からプッシュ式でも定期的に通知する。
- ②区HPで防災と防犯のページを分けるなど、情報発信の仕方を工夫する。
- ③被害の抑止になる詐欺防止グッズを配るなど、アナログ的な周知方法も並行して拡充する。
- ④プライバシー保護に配慮しつつ、防犯カメラの貸出しなど既存の制度を強化するとともに、防犯カメラが設置されていることを表記するなど、多くの人に周知する。
- ⑤地域の防犯活動などに参加してもらえようような動機・きっかけづくりとなる情報発信を行なう。
- ⑥区の情報について、必要な人にどのように届いているかを把握（例：区の制度の申請者に対し、どの広報媒体（広報紙、SNS等）で情報を得たか確認）することで効果的な情報発信につなげる。

△人と人とのつながりによる抑止力向上

- ①誰でも気軽に楽しく参加できる地域パトロールを実施し、参加方法（マッチング等）や活動内容を多様化させるなど、地域における防犯の輪を広げる。
- ②地域コミュニティ内での防犯メンター（防犯の助言や支援を行う人、防犯意識の高い人）の育成や、リアルやオンラインを問わず、困ったときに区や地域の人に気軽に相談できるような仕組みづくり（「バディシステム」等）など、防犯意識の高い地域のつながりをつくる。

□インフラ整備による抑止力向上

- ①防犯ブザーや詐欺対策グッズの配布など、デジタルに弱い人でも容易に活用できるアナログな対策方法を拡充する。
- ②企業と連携し、画像分析などのIT（AI）技術を用いた防犯カメラや、テクノロジーを活用した見守りについて普及啓発を行うなど、最新技術を効果的に活用した取組を推進する。
- ③企業等と連携し、緊急時にはオフィスや店舗に駆け込むことができるようにするなど、地域の防犯体制を強化する。
- ④企業等と連携し、地域に人の目を感じられるような取組を推進することで、犯罪抑止力の向上につなげる。（例：キッチンカーによる地域の目の役割）

- ⑤区民が不安に感じた情報や不審者情報等を相談、報告できるような仕組みなど、地域の防犯に関する情報（犯罪に至らない情報含む。）の共有化を図る。
- ⑥外国語対応を含め、犯罪被害に遭ってしまった際の相談窓口など、犯罪被害者に寄り添った支援を行う。

6 参画と協働の推進

- ①「情報発信・情報開示・意識改革（防犯情報の共有等）」、「人と人とのつながりによる抑止力向上（地域パトロールへの参加等）」及び「インフラ整備による抑止力向上（地域の見守りの目の確保等）」の取組に、区民や企業等がより関わることで、参画と協働を進める。
- ②【テーマ1・2・3 共通事項】多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる。
- ③【テーマ1・2・3 共通事項】提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」する。
- ④【テーマ1・2・3 共通事項】提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する。
- ⑤【テーマ1・2・3 共通事項】区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する。

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年9月21日(水) 18時30分～20時45分	<ul style="list-style-type: none">事務局紹介グループ会議の進め方について分野における現状と課題について検討テーマの選定リーダー、サブリーダーの選出
第2回	令和4年10月17日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第1回グループ会議の振り返り検討テーマ「防災」に関する議論
第3回	令和4年10月31日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第2回グループ会議の振り返り検討テーマ「防災」に関する議論
第4回	令和4年11月14日(月) 18時30分～19時50分	<ul style="list-style-type: none">第3回グループ会議の振り返り検討テーマ「防災」に関する議論
第5回	令和4年11月28日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第4回グループ会議の振り返り検討テーマ「生活安全（防犯）」に関する議論
第6回	令和4年12月12日(月) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none">第5回グループ会議の振り返り検討テーマ「生活安全（防犯）」に関する議論
第7回	令和4年12月26日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第6回グループ会議の振り返り提言書案について
第8回	令和5年1月16日(月) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">第7回グループ会議の振り返り提言書案について提言式についてグループ会議全体の振り返り・意見交換

第2グループ

防災・生活安全分野

テーマ1 区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組みづくり

テーマ2 災害に関する個人の意識改革

テーマ3 生活安全(防犯)における抑止力向上



みなとタウンフォーラム

令和5年3月23日

テーマ
01

区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組み作り

第2グループ
防災・生活安全分野

<p>将来像 FUTURE</p>	<p>防災を自分のこととして捉え、個の自立と互いの助け合いによって安心感のあるまち</p>	<p>社会変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域コミュニティの希薄化 ○働き方の多様化 ○多くの外国人区民の存在 ○防災活動を担う区民の高齢化 ○自然災害の発生
<p>方向性</p>	<p>マンション(賃貸・分譲問わず)などの集合住宅や地域における防災・減災対策の取組を支援する。</p>		<p>新たなコミュニティと行政との連携を強化し、資源のさらなる活用へと結びつけるために、情報発信・管理を充実・強化する。</p>
<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 集合住宅・地域における取組支援 ・災害時のライフライン確保の強化 ・平時から災害を意識した区と区民、区民間でつながる仕組みの構築 ・防災ボランティアなど助け合いの仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 区民や企業とのつながりづくり ・災害時に活用できる共助のためのネットワークづくり ・地域全体で、気軽に参加して学べる防災訓練の実施と参加の促進 ・企業が有する防災に関するノウハウの活用と連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信・管理の充実・強化 ・世代、属性を意識した効果的な情報発信 ・防災に関心を持ってもらうきっかけづくりとなる情報発信の工夫 ・区内防災設備の管理・共有
<p>参画と協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる ・提言を反映した基本計画の取組の進捗効果などを測定し、区の取組状況を「見える化」する ・提言実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に係る事業の効果の検証を区とともに実施する ・区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する 		

テーマ1, 2, 3
共通事項

将来像
FUTURE

防災を自分のこととして捉え、個の自立と互いの助け合いによって安心感のあるまち



- 地域コミュニティの希薄化
- 働き方の多様化 ○多くの外国人区民の存在
- 防災活動を担う区民の高齢化
- 自然災害の発生

方向性

多様な属性やライフスタイルに合わせ、個人が災害時に自分の命と互いの命を守る行動がとれるよう、自助・共助の取組の強化につながる学習機会の創出を推進する

日常から気軽に防災情報に触れられるよう、既存の防災・減災コンテンツなどを活用しつつ、防災に関連する遊びの要素を盛り込んだイベントや、誰もが参加しやすく楽しい防災訓練など、平時から個人の防災意識を高める取組を推進する

取組



- 個人の意識改革
 - ・属性やフェーズ、状況に応じたブレイブック等による個人の意識改革
 - ・個人に合った想定行動プランの作成支援等による意識改革

- 誰もが参加しやすい防災訓練
 - ・多様な属性にあわせた防災訓練の実施
 - ・防災以外のテーマと防災を掛け合わせた啓発の実施
 - ・民間企業の企画力やコンテンツの活用

- 平時における効果的な意識啓発
 - ・学校教育における防災教育の充実
 - ・トイレや水など、日常生活と密接に関わる防災対策の周知・啓発

参画と協働



- ・多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる
- ・提言を反映した基本計画の取組の進捗効果などを測定し、区の取組状況を「見える化」する
- ・提言実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に係る事業の効果の検証を区とともに実施する
- ・区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する

テーマ1, 2, 3
共通事項

将来像
FUTURE

国籍や老若男女問わずあらゆる人が、リアルでもオンラインでも安全で安心に暮らせるまち



- 地域コミュニティの希薄化
- インターネット上のつながり・デジタル化
- 多くの外国人区民の存在
- 犯罪の国際化 ○区内の人口増加
- その他(新たなモビリティの普及、新型コロナ)

方向性

情報発信・情報開示、意識改革による抑止力向上

人と人のつながりによる抑止力向上

インフラ整備による抑止力向上

取組



- 情報発信・情報開示、意識改革
 - ・防犯情報を一元化し、区の情報媒体への掲載やプッシュ式での発信
 - ・被害の抑止になるアナログ的な周知方法の拡充
 - ・必要な人にどのように情報が届いているか把握し、効果的な情報発信につなげる

- 人と人のつながり
 - ・誰でも気軽に参加できる地域パトロールを実施し、防犯の輪を拡げる
 - ・困ったときに気軽に相談できるような仕組みづくりなどを通じ、防犯意識の高い地域のつながりをつくる

- インフラ整備
 - ・最新技術を効果的に活用した取組や緊急時の駆け込み先の確保など、地域の防犯体制を強化
 - ・企業等と連携し、地域に「人の目」を感じられるような取組を推進する
 - ・地域の防犯(犯罪に至らない声掛け情報等)に関する情報の共有化

参画と協働



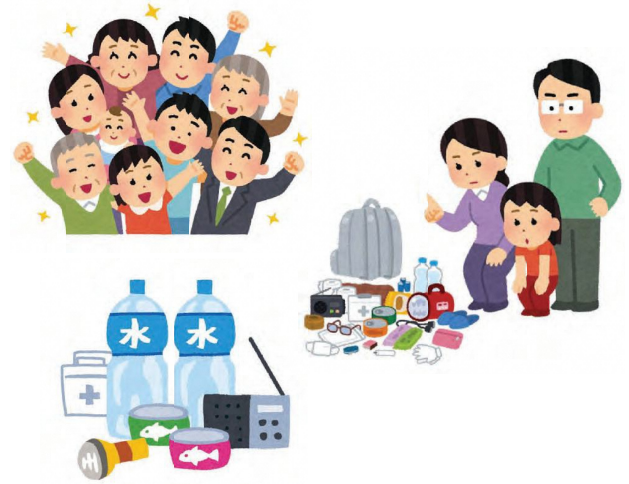
- ・多様な受け手を意識した情報発信について、区民の意見を踏まえた内容を検討し、効果的な広報につなげる
- ・提言を反映した基本計画の取組の進捗効果などを測定し、区の取組状況を「見える化」する
- ・提言実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に係る事業の効果の検証を区とともに実施する
- ・区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する

テーマ1, 2, 3
共通事項

まとめ

タウンフォーラムがこの提言書をまとめあげたことで終わりではなく、今後の勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論が出ました。

提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもちます。



みなとタウンフォーラム

会議録

みなとタウンフォーラム 防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年9月21日（水）18時30分～20時45分

会場：港区役所9階 913会議室

メンバー：8名（欠席者1名）

【内訳】対面参加6名、オンライン参加2名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 検討テーマの選定
- 5 リーダー、サブリーダーの選出
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
3-2	提言の取りまとめイメージ
3-3	前回みなとタウンフォーラム提言書
4	検討希望テーマ集計結果
5	リーダー、サブリーダーの役割について
参考資料1～4	各種啓発チラシ（防災ラジオ、安全安心メール等）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第1回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 事務局紹介

事務局より、配布資料1に基づき、事務局メンバーの紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

○メンバー自己紹介

各自30秒を目安にメンバーの自己紹介を行った。

○会議の進め方

ファシリテーターより、第1回グループ会議の到達目標（検討テーマの選定、リーダー、サブリーダーの選出）及び発言に当たっての留意事項（他者の意見の尊重等）について説明を行った。

(質疑なし)

○検討スケジュール

事務局より、配布資料2に基づき、活動日程や内容について説明を行った。

(質疑なし)

○提言の構成

事務局より、配布資料3、3-2、3-3に基づき、提言の構成について説明を行った。

(質疑なし)

3 分野における現状と課題について

関係課長より、港区基本計画及び参考資料1～4に基づき、防災、生活安全に関連する施策や取組について概要の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：共同住宅の定義を教えてください。また、共同住宅に対する防災施策の活用に関するアプローチの現状はどうなっているか。(質問)

事務局：6階以上かつ20戸以上の共同住宅を高層住宅、3階から5階までで、かつ10戸以上の住宅を中層住宅と位置付けている。共同住宅に対する防災資器材助成制度について、分譲住宅であれば管理組合にアプローチ可能だが、管理組合がない賃貸住宅の場合は周知等が難しい現状もある。区の広報紙やホームページ、SNSだけではなく、不動産協会の力も借りながら周知を図るなど、アプローチに取り組んでいる状況である。

参加者：区の職員への防災に関する研修や教育の状況はどうなっているか。防災士の資格を職員に積極的に取得させるべき。また、職員の多くが、港区に住んでいないことに危機意識を持っている。災害時の職員の体制についても知りたい。(質問)

事務局：防災士の資格取得について、防災課職員をはじめ各地区総合支所の協働推進課職員が研修を受講している。新人職員全員に対して、防災資器材の使い方を学ぶ訓練をしている。区内5地区で実施する総合防災訓練での職員の参加のほか、震災発生時の職員参集シミュレーションの訓練も実施している。区内の災害対策職員住宅にも職員が居住しており、閉庁時に発災した際には区役所へ参集し、災害対応を担うこととなる。

参加者：共同住宅の単身世帯と家族世帯の割合を教えてください。何年ぐらいで住民は入れ替わるのか。区の公式LINEの登録者数はどれくらいか教えてください。(質問)

事務局：即答が難しいため、次回までに調べ、回答させていただく。

参加者：区の実験の説明を聞き、知らないことが多いと感じた。災害発生時に、区内のどこに何があるのか知らなければ、活用しようがない。生活安全では、高齢者への詐欺対策に力を入れ、なくすことができればと思う。不審者など地域の安全に不安を感じることもある。(感想)

参加者：区の実験の中で、民間委託を進められるものがあると思う。オレオレ詐欺対策でも、民間の力を活用すれば携帯にかかってこなくなる仕組みもある。また、災害時を想定し、避難所や公園に1泊する訓練があってもいいと思う。(感想)

参加者：区で貸与している振り込み詐欺防止の自動通話録音機を設置しているが、詐欺電話だけでなく、友達からもかかってこなくなった。防災ラジオはコンパクトの方が持ち運びしやすい。実際に機器を使用しているユーザーの立場から、現物の貸与や支給よりも助成金の方が使い勝手がいいと感じる。(感想)

4 検討テーマの選定について

ファシリテーターより、配布資料4に基づき、参加者へ事前に調査した検討希望テーマの集計結果について説明を行った。事前の集計結果としては、多い順に、「地震等の震災対策」、「地域の防災力向上」、「台風や集中豪雨など風水害対策」、「生活安全（防犯）の向上」、「その他（災害時の区の情報発信）」となった。

検討テーマの選定について議論が行われ、「民間の力を活用した情報発信」の観点から、優先的に「防災」のテーマについて集中的に議論した後、残された時間に応じて「生活安全（防犯）」をテーマとして扱うこととした。

(主な意見等)

参加者：「地震等の震災対策」をテーマにしたい。地震はいつ発生するか分からない恐怖がある。

参加者：「その他」として、「民間の力の活用」をテーマにしたい。行政の無駄を無くし、民間の力を活用できるものは民間に委ねることができればいい。想定テーマの中に情報発信や民間活力が無いこと自体が行政の課題であり、一番のテーマであると感じた。

参加者：「地震等の震災対策」をテーマにしたい。港区は海に面しており、津波対策も含めて議論できたらいい。

参加者：「地域の防災力向上」をテーマにしたい。地域と言いつても、隣に誰が住んでいるかわからないという現状がある一方で、隣人には知られたくないという心情もある。こうした状況の中で地域の防災力について検討できるものがあるか考えていきたい。

参加者：「地域の防災力向上」をテーマにしたい。地域の防災力が機能しないと、震災対策や風水害対策に結びついていかない。

参加者：「その他」として、「情報発信」をテーマにしたい。事務局の説明を聞き、立派な施策がたくさんあると感心したが、港区に25年住んでいてもほとんど知らない取組ばかりだ。区の実験を区民に知ってもらうことが必要なのではないかと。手法として民間活力の視点が入ってくるのではないかと。

参加者：「地域の防災力向上」をテーマにしたい。自助と共助の視点から検討できればと思う。

参加者：「生活安全（防犯）の向上」をテーマにしたい。自然災害への対策もとても大事だが、日々の生活を安心して過ごしたいという思いがある。隣の住民同士もよく知らない状況もあり、人と人とのつながりが薄くなっている。災害時も住民同士のつながりが重要になってくる。情報発信の重要性についても賛同する。

ファシリテーター：意見を集約すると、「地域の防災力向上」が一番多かった。テーマとして取り上げる方向になると思うが、いかがか。

参加者：「地域の防災力の向上」のテーマについては賛成する。関連して「その他」の情報発信は大事だと思う。必要な情報を区民が知らないのはもったいない。行政と区民の情報の共有に力点を置いて議論し、クローズアップしてはどうか。人と人との繋がりの希薄化に関する意見が出たが、タウンフォーラムの「地域コミュニティ」グループがあるので、この議論は他グループに任せたらいいと思う。

参加者：テーマの案を大きく括ると、「防災」と「生活安全（防犯）」に分かれる。これまでの意見で防災は多くの人が賛同しているので異論はないと思うが、「生活安全（防犯）の向上」を検討テーマに入れるかどうかを決めたほうがいいのではないか。

ファシリテーター：今のご意見を踏まえ、「その他」の「情報発信」と「民間の力の活用」についても、検討テーマとして扱うかどうか検討する必要があると思うが、いかがか。

参加者：「その他」の「情報発信」と「民間の力の活用」はテーマとして取り上げた方がいいと思う。「地震等の震災対策」、「地域の防災力向上」、「台風や集中豪雨など風水害対策」、「生活安全（防犯）の向上」については、以前の計画策定の際のタウンフォーラムでも議論されてきた。今日これまで出た意見のように、区の実組を知らない区民は多く、情報の共有は大切だ。また、民間の力を活用することで、アウトソーシングできるものは民間に委ね、行政は、行政にしかできない取組に特化していけばいいと思う。

参加者：今のご意見を踏まえ、「災害」、「生活安全（防犯）の向上」、「情報発信・民間の力の活用」の3テーマでどうか。「生活安全（防犯）」も検討テーマにしていいと思う。いざというときには、情報が生死の境目になる。民間のネットワーク活用も大切だ。情報発信・民間活力について、新たなテーマとして取り上げることに賛成する。

ファシリテーター：情報発信と民間活力を単独のテーマとして扱うか、それとも、情報発信と民間活力は全てに共通する視点ともいえるので、「防災」と「生活安全（防犯）」のテーマの中で、横串を通す視点として取り扱うこともできる考え方もあるが、いかがか。

参加者：確かに「情報発信」と「民間の力の活用」はテーマに対する横串としての視点だと思う。単独のテーマで扱うというよりも「防災」、「生活安全（防犯）」といったテーマの切り口、横串の視点として整理することがすっきりするのではないか。

参加者：横串の視点として入れるとなると、意味合いが薄まってしまうことを危惧する。良い案があっても皆に共有されていなければ意味がない。確かに横串ではあるが、強化、徹底すべきという点で取り上げたらどうか。

参加者：テーマは3つも必要なのだろうか。これまで出たテーマより、もう一段下の概念でテーマを決めてもいいのではないか。例えば、地震対策の情報共有のために、民間の力を活用する取組を考え、研ぎ澄ました方が、限られた時間を有効に使えるのではないか。一つのテーマに集約するのはいかがか。

参加者：賛成である。限られた時間で全体を網羅することは厳しい。無難な提言ではなく、一つのことを徹底的に掘り下げた提言の方が効果があると思う。

参加者：議論は絞った方がいいと思う。災害は地震なのか台風なのか想定できない事態もあり得る。いつ何が起きてもおかしくない。「防災」というテーマの場合は、「皆の命を守るために」、「安全を確保するために」何が必要かという議論を深めていくこともできると思う。

参加者：一つのテーマに集約し、検討テーマを絞ることに賛成だ。「情報発信」と「民間の力の活用」を柱に据え、「災害対策」、「生活安全（防犯）」について議論を広げてはどうか。

参加者：前回提言にも情報発信に関する内容がある。今回の議論でも同じよう結果が出ないか危惧している。

参加者：「情報発信」と「民間の力の活用」を分けて議論するのではなく、両方合わせて「民間の力を活用した情報発信の強化」について検討するのはどうか。前回の提言では効果的な情報発信について触れているが、今回の議論では、単身世帯や家族世帯、様々な状況にある人に合った形での効果的な情報発信と民間の力の活用について、どのようにすれば防災につながっていくのか検討すれば、前回と差別化できるのではないか。

ファシリテーター：「民間の力の活用を活用した情報発信」の観点から「防災」と「生活安全（防犯）」というテーマについて考え、提言にしていくという案だが、いかがか。

参加者：「防災」と「生活安全（防犯）」のテーマのどこに一番の焦点を当てるかが大切だと思う。「防災」と「生活安全（防犯）」の二つとも焦点を当てるのか、一つに絞るのか。

参加者：地震対策、風水害対策、地域の防災力は「防災」で括れる。「防災」と「生活安全（防犯）」は発生起点の違い、被災者（被害者）対応の違い、その後求められる対応にも違いがある。「防災」と「生活安全（防犯）」を両方テーマとして扱うか、一つに絞るのか。

参加者：「防災」と「生活安全（防犯）」の分け方は良いと思う。防災は、自然災害に対するもので、「生活安全（防犯）」は犯罪等の人に起因するものだ。

参加者：自然災害に対する「防災」はテーマとして外せないと思う。人に起因する生活安全（防犯）もテーマとして扱うか多数決で決めてはどうか。

ファシリテーター：それでは、検討テーマについて、①防災・生活安全（防犯）両方、②防災のみ、③生活安全（防犯）のみの選択肢で多数決を行いたい。

（挙手による多数決を実施し、結果は下記となった）

- ① 防災・生活安全（防犯）両方：4人
- ② 防災のみ：4人
- ③ 生活安全（防犯）のみ：0人

参加者：防災をテーマとして扱うことに異論はないという結果だと思う。

参加者：まずは、優先度の高い「防災」について議論して、時間的に余裕があれば「生活安全（防犯）」を取り上げるのはどうか。「防災」の議論の状況で仮に時間が足りなくなれば、「生活安全（防犯）」を扱わずにそれで終われば良いという選択肢もある。

参加者：「防災」を優先するのは賛成するが、日々の生活を安全に過ごしたいという「生活安全（防犯）」も大切なテーマだと思う。両方扱えるのがいいと思うが、確かに時間的な制約があるので、集中して結果を出すために「防災」にテーマを絞ることに反対はない。

ファシリテーター：これまでの議論のとおり、まずは「防災」について集中して議論し、時間的な状況を見て、可能であれば「生活安全（防犯）」のテーマに入っていくということでしょうか。

（全員異議なし）

ファシリテーター：それでは、「民間の力を活用した情報発信」の観点から、優先的に「防災」のテーマについて集中的に議論した後、残された時間に応じて「生活安全（防犯）」をテーマとして扱うことで決定する（結論）。

5 リーダー、サブリーダーの選出について

グループ会議運営に当たってのグループリーダー、サブリーダーの選出について、メンバーの互選を行い、各1名の立候補があった。満場一致で承認され、リーダー、サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

6 その他

参加者一人ひとりから第一回グループ会議を振り返って感想を述べた。

事務局より次回開催日程等の確認を行った。

（閉会）

事務局が第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月17日（月）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階研修室

メンバー：参加者6名（欠席者2名）

【内訳】対面参加5名、オンライン参加1名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第1回グループ会議）の振り返り
- 2 第2回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマ（防災）に関する議論
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第1回グループ会議 会議録
2	第2回グループ会議の進め方
3	提言の構成について（様式）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第2回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第1回グループ会議)の振り返り

事務局より、配布資料1に基づき、前回会議の振り返りと確認を行った。

(主な意見等)

参加者：港区の公式LINEやTwitterの情報は区からの一方通行か。

事務局：そのとおり。

参加者：港区の年間の転出入者の総数のうち、外国人の割合はどのくらいか。

事務局：調べた上で回答させていただく。

2 第2回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料2に基づき、第2回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

(質疑なし)

3 検討テーマ(防災)に関する議論

○検討テーマ(防災)に関する区の取組説明

防災課長から、港区ホームページを投影しながら、災害時の情報発信を中心に防災に関する取組の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：東日本大震災以降、対象地域に居る人の携帯電話に緊急地震速報等の緊急メールが流れてくるようになった。こうした仕組みは区でもあるのか。

事務局：区においても、携帯電話会社の回線を通じて、港区内に居る人に緊急情報を発信する仕組みがある。

参加者：情報の発信はもちろん大事だが、情報を受け取った後の行動が大切であると感じた。情報があっても何をしたらいいか分からなければ意味がない。

(1) 将来像(めざすまちの姿)と社会変化、実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組についての検討

ファシリテーターの進行のもと、将来像(めざすまちの姿)と社会変化、実現に向けた課題と施策の方向性、具体的な取組について、参加者が付箋に書き出した意見に基づき、相互に質問し、意図を確認しながら、検討を行った。

第2回グループ会議終了時点において、課題と施策の方向性として、「区と区民をつなぐ新たなコミュニティを考える」、「個人の防災、災害に関する意識改革や行動指針」と整理した。また、具体的な取組の検討として、「区と区民をつなぐ新たなコミュニティやツール」及び「個人の防災・災害に関する意識改革」にグループ分けした。時間の都合上、「参画と協働」の視点は次回議論することとした。

○社会変化について

参加者：タワーマンション等に新しく転入してくる住民は、地域の町会など既存のコミュニティに

なかなか入っていきづらい雰囲気があるかもしれない。

参加者：人口の増加は良いことだと思うが、転出入によって地域のことをよく知らない人も増えていくので、災害時の情報を受け取ったとしてもスムーズな行動が難しい。

参加者：現在は区民同士のつながりが少なく、「個」のとき代とも言えるような状況だと思う。

○将来像(めざすまちの姿)について

参加者：これからの世代や子どもたちが集い、自然環境等を楽しめ、災害時には横のつながりがあるまちがいい。

参加者：災害など困ったときに、誰に何を聞けばいいか分かる地域がいい。

参加者：災害時に行政にあまり頼り過ぎずに、個人や各世帯が自立しつつ、会社等それぞれのコミュニティの中など、つながりをしっかり持っているまちがいい。

参加者：災害時には自分の命は自分で守りたいが、住民同士が協力し合うつながりは必要だ。いざというときは協力し、互いの命を守れる地域になると嬉しい。

参加者：何があっても、港区にいれば命が助けられるという安心感を持てるまちであってほしい。

参加者：一点目は、安心感があり、万が一のときに具体的にどうしたらいいか分かるまち、二点目は商店街など古さと新しさが融合し、生活感がしっかりあるまち、三点目は、災害対策においてもITが活用され、便利なまちがいい。

○実現に向けた課題と施策の方向性について

参加者：平時と発災時に分けて、平時から啓蒙活動をしっかりやっていく必要がある。また、区の計画では「守る」を強調しているが、現実的には「減災」の視点も大切だと思う。

参加者：相談する相手や家族がいない場合、「困ったときにどうしたらいいか」という課題がある。例えば、個人に合った災害時の想定行動プランの作成やアプリなどを通じて課題にアプローチするようなことも考えられる。

参加者：住民同士のつながりは大切である。一方で、町会等の既存のコミュニティには入りづらい雰囲気も感じる。

参加者：災害時を含め、地域の住民が果たす責務のようなものが明確だと行動しやすい。

参加者：区と区民、地域コミュニティにおける区民同士のつながりもアナログからデジタルへの移行期かもしれない。個人においても、防災への普段の備えや情報の取得について意識する必要がある。

参加者：防災について、行政にしてもらふことと、自分で備えることがある。毎年、一定数の区民が転出入で入れ替わる現状において、個人の防災に関する意識改革が必要だ。

参加者：区と区民、区民同士をつなげる仕組みでは、町会等の既存のコミュニティだけでなく、企業やアプリ等のツールが担うといったこともあるのではないかな。

参加者：小中学校の卒業生のネットワークのようなものを災害時に活用するようなアイデアも考えられる。

参加者：いざというときの情報は大切であり、平時から個人で情報を積極的に取りに行くような意識改革や、行政からの情報の効果的な伝え方の工夫も必要だ。

ファシリテーター：これまでの議論を踏まえ、現段階の施策の方向性として、「区と区民をつなぐ新たなコミュニティを考える」、「個人の防災、災害に関する意識改革や行動指針」と整理し、次の具体的な取組の議論に入りたい。

○具体的な取組

参加者：「区と区民をつなぐ新たなコミュニティ」では、既存の町会等のコミュニティ以外にも、学校の卒業生のコミュニティや、地域特性である企業や飲食店等の活用した防災のコミュニティが考えられる。「個人の防災の意識改革」では、転入届の際に、区からLINE等の情報ツールについて積極的にアプローチする方法もあると思う。

参加者：実際被災した人、被災地のボランティアの話を知ると、自宅避難の際でもトイレ対策は切実だ。必ず生理現象は発生する。

参加者：トイレなど誰にでも身近なものからアプローチしていくと、防災意識とか災害の意識も上がっていくかもしれない。

参加者：災害時における個人に合った行動プランを作成し、定期的に区や防災士の人からアドバイスもらえるようなことがあると、個人の意識改革につながっていくかもしれない。

参加者：防災を前面に出し過ぎずに、遊び感覚で意識を高めるアプリみたいなものがあると、個人の意識の向上につながりやすいと思う。

参加者：遊びの要素に関連して、公園には災害用のベンチもあるので、普段は禁止されていると思うが、炊き出しやバーベキューを切り口に、「結局は防災につながっていく」というような啓発の方法も考えられる。

参加者：学校の卒業生のネットワークについて、OBやPTA等の平時のつながりを災害時に活用できるようなことが考えられるといい。

参加者：町会以外にも、マンション管理組合や学校、企業、商店街などに防災担当を置いてもらうようなことも、区と区民のつながりとなる可能性がある。

参加者：区と区民とのつながりということについて、港区から見た時にまだ活用できてない資源があると思う。区民が多様化している中、区や区民同士のつながりもマルチで、多様化するのが自然だ。その上で、区民がどのチャンネルを選ぶことができるか。

参加者：区役所本庁舎が災害時に電源が落ちた際の自家発電装置を持っているのであれば、防災訓練の一環として、地域の人たちが雑魚寝を体験するとかできるといい。

参加者：今の意見のように、現状の防災訓練より実践的な内容をやってみようとか、アプリでやってみようとか、個人の意識改革の議論になっていくと思う。そういう視点も踏まえて、提言につなげていけるといい。

ファシリテーター：次回では、今日の議論を踏まえてグループ分けされた「区と区民をつなぐ新たなコミュニティやツール」及び「個人の防災・災害に関する意識改革」の取組について、区民の参画と協働の視点を入れつつ、ブラッシュアップしていくこととしたい。

4 その他

参加者及び事務局から第2回グループ会議を振り返って感想を述べた。

事務局より次回開催日程等の確認を行った。

(閉会)

リーダーが第2回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月31日（月）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階研修室

メンバー：参加者8名

【内訳】対面参加7名、オンライン参加1名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第2回グループ会議）の振り返り
- 2 第3回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマ（防災）に関する議論
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議 会議録
2	第2回グループ会議ホワイトボード記録写真
3	第3回グループ会議の進め方
4	提言の構成について（様式）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第3回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第2回グループ会議)の振り返り

事務局より、配布資料1・2に基づき、前回会議の振り返りと確認を行った。

2 第3回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料3に基づき、第3回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

(質疑なし)

3 検討テーマ(防災)に関する議論

ファシリテーターの進行のもと、前回会議で整理された課題と施策の方向性である①区と区民をつなげる新たなコミュニティやツール②個人の防災・災害に対する意識改革の具体的な取組について、意見出しを行った。また、第1回グループ会議で検討テーマは「防災」で整理されたが、今回の議論を通じて検討テーマを「集合住宅の共助」、「震災意識の自分事化」、「フェーズごとの行動指針」の3つの要素を加えて再度整理し直し、次回以降議論していくことになった。

(主な意見等)

○具体的な取組について

参加者：災害時に何をしたらいいのかわからないので、一方通行の情報発信だけではなく、行政とつながれるバディシステムのようなものを作り、いざというときにはその人のところへまらずに行くようなシステムがあると区民も安心すると思う。

参加者：引越しや結婚等の手続きのために区役所へたまに行くことがあると思うので、そのときにLINE等を登録しないかなど、区からの働きかけがあるといい。地震がきたらLINE等で通知をして、何をするのかを知らせてほしい。

参加者：単身世帯が増えている状況なので、近くの誰かに助けを求めると助けてくれるような仕組みがあるといい。

参加者：防災の意識啓発について、ただ恐怖を煽るだけではなく、つながっていくことの楽しさも普段からあるといいと思う。

参加者：孤立化が進んでいて、いろいろな人たちと普段からつながることは難しいかもしれないが、災害が起きたときには区民が助け合えるツールがあるといいと思った。消防団や学校、町内会、マンション管理組合が連携し、意識改革を誘発するようなつながりができるといい。

参加者：情報やコンテンツはたくさんあるので、マンション向けや高齢者向けのパッケージを整理するだけでだいぶ違うと思う。防災を意識して活動する人は非常に少ないので、何かのコミュニティにつながった結果として防災にたどり着くようなやり方の方が広がっていくと思う。

参加者：マンションで防災組織をつくると、行政が専門家を派遣して指導やいろんなサービスを提供してくれるが、小さなマンションだと不安がある。誰も取り残さない港区にするにはどうすればいいか。

参加者：つながるきっかけが大事だと思う。港区は人の出入りが大きいのであれば、転入してくる

方にしっかりと情報を伝えることが大切だと思う。ホームページのなかで防災というテーマを大々的に取り上げることや、公共施設や駅などにアクセスポイントを整備することで、自ら情報を取ろうとする人も出てくると思う。

参加者：登山やバーベキューなどの趣味や遊びを通じて、いざというときの備えや、「結局は防災につながっていく」というような啓発の方法も考えられる。

参加者：普段からわからないことは携帯のアプリ等で検索し、自分の生活環境に合うような形で情報を入手していけばいいのかなと思う。

参加者：生き方が多様化しているからこそ、自分のライフスタイルに合った防災講座などをやってみると、意識改革が楽しく進むかもしれない。

参加者：電気・ガス・水道・通信が3日間絶たれたときに何ができるかを考えとして入れておいた方がいい。特に、通信はつながりを絶たれてしまうので。

参加者：災害は自分の都合のいいように起こらないので、つながりが大切。

参加者：防災訓練に参加したがつまらなかった。何かテーマをもって楽しいイベントを実施してほしい。テレビ局等と連携して面白い防災イベントを実施するのもいいと思う。

○内容の整理について

ファシリテーター：これまでの意見出しを踏まえ、提言書の具体的な取組の見出しについて内容を整理していきたい。

参加者：個人や企業で災害が発生する前に対策をして、発生した時の被害を小さくする減災と、発生後の対応に分けられる。

参加者：意識で言うと、「自分で頑張ろう」というものと、「他人と一緒に頑張ろう」に分けられる。

参加者：自分の意識を高めつつ人とつながって減災していくという考えはどうか。

参加者：自分で情報を取りに行くための何かと、集合住宅での減災で分けてはどうか。

参加者：時間軸で必要なものが変わってくる。

参加者：災害のフェーズごとの行動計画は重要だと思う。

参加者：集合住宅の防災と、自分で能動的に意識改革を行い、自分事化するという二つはしっかりときている。

参加者：自助がないと共助はないので、まずは自助が大事。

参加者：「区と区民をつなげる新たなコミュニティやツール」のテーマは、行政が活用できていない民間の未利用資源の活用や情報発信についてもつながるものだと思う。

ファシリテーター：検討テーマは大きく「防災」と時間があれば「生活安全」ということで整理していたと思うが、提言書の構成を意識すると、改めて整理する必要があると思うがいかがか。

参加者：「集合住宅の共助」、「震災意識の自分事化」、「フェーズごとの行動指針」の3つを方向性にし直すということでもいいと思う。これまでの議論を踏襲しているので問題ないのではないか。

参加者：検討テーマは防災という大きな括りの中であれば、分化してもいいと思う。

参加者：今回までのグループ会議を踏まえて内容を整理し、提言書の構成に合わせて骨子となるたたき台を作成した方がメンバーの共通認識も図りやすく、議論がしやすい。

ファシリテーター：検討テーマについては、これまで整理した「区と区民をつなげる新たなコミュニティやツール」、「個人の防災・災害に対する意識改革」を括りに、「集合住宅の共助」、「震災意識の自分事化」の要素を加え、具体的な取組の方向性と合わせて再度整理する。今回は、リー

ダーが作成するたたき台をもとに内容をブラッシュアップし、また、将来像についてもまとめていくこととしたい。

4 その他

参加者及び事務局から第3回グループ会議を振り返って感想を述べた。
事務局より次回開催日程等の確認を行った。

(閉会)

リーダーが第3回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月14日（月）18時30分～19時50分

会場：港区役所9階911会議室

メンバー：参加者7名、欠席者1名

【内訳】対面参加6名、オンライン参加1名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第3回グループ会議）の振り返り
- 2 第4回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマ（防災）に関する議論
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議 会議録
2	第4回グループ会議の進め方
3	提言骨子(たたき台)※リーダー作成
4	これまでの議論の整理表
5	提言の構成(様式)
参考資料	前回提言書(防災・生活安全分野)

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第4回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回(第3回グループ会議)の振り返り

事務局より、配布資料1に基づき、前回会議の振り返りと確認を行った。

2 第4回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料2に基づき、第4回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

(質疑なし)

3 検討テーマ(防災)に関する議論

ファシリテーターの進行のもと、リーダーが前回会議の議論をもとに作成した提言骨子(たたき台)について、リーダーからメンバーへ説明をしたうえで、具体的な提言の内容について議論した。今回の議論で整理された内容をもとに提言書案を作成することとし、第7回会議にて確認することとした。次回は検討テーマ「生活安全」について議論していくことになった。

(主な意見等)

ファシリテーター：今回は、リーダーに作成していただいた提言骨子(たたき台)をベースに、議論を進めていきたい。まずは、めざす将来像について意見をいただきたい。

参加者：多様な国籍の方が港区には住んでいるので、外国人向けの言語に対するサービスも必要だと思う。防災訓練等のイベントには外国人の参加者が少ない。日本語を読める外国人の方でも、町会の掲示板のチラシ等は目に入らないらしい。母国語ならではのものがあと思うので、いろんな言語で表記することが大切なのではないか。

参加者：安心感があるまちというのが意見として多い。また、一方的に寄りかかるのではなく、お互いに助け合う、助けてほしい時には「助けてほしい」といえるまちも将来像としてはいえる。

参加者：いざ震災が起こったときに自分が何を手伝えるのか、何をしたらいいかわからないし、防災訓練にも参加していないので、どこから情報をとればいいのかもわからない。

参加者：古さと新しさが融合というのも意外といいのかと思う。

参加者：他のまちよりもアベレージが高いまちだからこそ、ここに住んでいると思う。他のまちよりも安心できる、他のまちよりもいいなと思えることが人を呼び寄せると思う。

参加者：区役所のなかで掲示物等を英語表記するなどの担当部署はあるのか。

事務局：国際化推進を担当する部署がある。区のホームページは、自動翻訳機能があり、ボタン一つで英語、中国語、ハングルに切り替えられる。

参加者：情報を自分でとれることも大切である。能動的に動ける人がサバイブできるというのも必要な考えだと思う。

参加者：「つながり」というような言葉があるといいのかなと思う。

参加者：人づくりなどのソフト面のめざすべき姿のキーワードがあるといいのかなと思う。

参加者：今のめざすべき姿には個人の姿しかないため、企業が目線もあるといいのかなと思う。昼間の人口と夜の人口をみると、明らかに昼間は働いている人が多いので。

参加者：昼間と夜とでは、対応がかなり変わってくる。

参加者：安心感というのを大切にしたい。IT等の新しい技術を先進的に取り入れていけるといい。LINE等の機能ももっとうまく活用し、区のなかでもっといろんな立場から知恵を出せる仕組みを作っていくことも大切である。

コーディネーター：めざすべき姿の重要なところがまとまってきたので、事務局で再度まとめ、第7回のグループ会議で皆さんに確認していただく。

参加者：基礎的なインフラを3日ないし1週間程度キープすることは、企業を呼びつけ、多くの企業が存在することで、人の安心感にもつながっていると思う。

コーディネーター：リーダーが作成した提言骨子をもとに意見出しをしてきたが、他に追加・補足することなどはないか。皆さんから意見をいただき、了解が得られれば、今日の会議を予定時刻より早めに終了することも可能である。

参加者：アプリをとりあえず使ってみて、効果がなければ違うものを使うなどでもいいと思う。今回の提言書では、概念的なところをまとめるのか、より具体的なものをまとめるのかはどちらなのか。

コーディネーター：概念的なところをまとめて、提言することになる。より具体的なものについては、活動記録として残すことはできる。

参加者：知識としては必要なことなので、この場で意見をいただくといいと思う。

参加者：国や他の自治体が導入しているアプリが全て港区にマッチするとは限らないが、試験的に導入することはいいと思う。

参加者：今日地震が起きたが、気が付かなかった。港区の防災アプリを入れているが何も反応がなかった。

参加者：アプリが起動する基準に満たさなかったからだと思う。

コーディネーター：他に提言の内容について、付け足しなどないか。

参加者：役所だけでできる情報発信系と、個人が参加することで改革が進むものの二つに分けられる。テーマとしては、自助は参加型の意識改革として何ができるか、共助はコミュニティやコミュニティツール関係で、飲食店、マンション、ボランティア、企業などのキーワードが入ってくる。公助では情報発信系というように3本柱にすると前回の提言と照らし合わせることでわかりやすいのでは。

参加者：情報の有効活用と個人の意識改革とあえて大きく分けているが、どうグルーピングするか、分け方の話だと思う。

参加者：自助、共助、公助をテーマとした場合、取組の方向性については、再度言葉として整理する必要はある。

参加者：意見としてはある程度出たと思うので、この段階でまとめることも可能だと思う。

参加者：議論の深さ、広さとなったときに、内容として十分だろうか。意見として出し尽くしているだろうか。

参加者：結果として、前回提言と同じようなものができてしまう懸念もある。

参加者：飲食店や同窓会のネットワークを活用するなどの新しいアイデアは出ている。議論を通じて、新しいものはなかなか出ないということもあり得ると思う。

コーディネーター：テーマを自助、共助、公助に分けるのか、それとも、情報の有効活用と個人の意識改革で分けるのかは確認したい。

参加者：テーマは情報の有効活用と個人の意識改革でいいと思うが、その二つについて、自助、共

助、公助の視点でみたときに議論の深さは十分だろうか。

参加者：施策の方向性を自助、共助、公助とした場合、公助の内容は足りない気がする。

参加者：自助は自分でやること、公助は行政がやること、共助は地域のネットワークでやることというイメージだと思うが、アプリはどこに当てはまるか。

参加者：アプリは方法のひとつなので、ケースバイケースでどれにも当てはまる。

参加者：提言骨子（たたき台）を自助、共助、公助の視点でチェックするということがいいのではないか。

参加者：提言の内容については、すごくいいと思っている。

参加者：子育て支援のボランティアグループに参加したことがあり、区民がお互いにできることを提供し合うような仕組みだったが、防災の関連でもそのようなものがあるといいなと思う。いざというときに区民全員自分が提供できるものを事前に登録しておく仕組みなどがあるといいなと思った。

参加者：何人以上の企業の場合には、防災訓練に一人参加させ、参加しない場合には罰金などの規定を設けることで、関心が高まるのではないか。

参加者：商店街のスタンプラリーに参加したが、そのスタンプラリーの中に地域防災協議会のスタンプを押さないと全部コンプリートできない仕組みにしていた。そういったことを推進することで、企業のブランディングも上がり、参加者も楽しく学べるアイデアが出てくると思う。

参加者：企業側で災害時にどうするべきかというシナリオを作って、訓練などをしていると思う。そのような取組を行政が理解し、お互いに協力できることがないか積極的に働きかけることも大切。既存のものに行政が積極的に関わっていくことが大切だと思う。

参加者：意識が高い人を行政がしっかりサポートすることも大切だ。区が防災士養成講座で区民の防災士取得を促進しても、取得後のフォローが乏しい。防災士など意識が高い人のネットワークは有効活用できると思う。

参加者：防災意識が高い人の活用は大切だと思う。また、事務局には、議論してきた情報の有効活用と個人の意識改革の二つのテーマについて、自助、共助、公助の視点から整理してもらえれば、よりわかりやすくなると思う。

ファシリテーター：第7回目には、今回を含めこれまでの議論を踏まえた提言書案を皆さんに確認していただき、そこで出た修正意見などを反映したものを第8回目で最終確認していただく流れとなる。次回（第5回）と次々回（第6回）は生活安全（防犯）について、議論していくこととしたい。

4 その他

事務局より次回開催日程等の確認を行った。

（閉会）

リーダーが第4回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月28日（月）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階911会議室

メンバー：参加者8名

【内訳】対面参加7名、オンライン参加1名

※途中退出2名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第4回グループ会議）の振り返り
- 2 第5回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマ（生活安全（防犯））に関する議論
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議 会議録
2	第5回グループ会議の進め方
3	生活安全（防犯）に関する説明資料

■貸与資料

資料番号	資料名
参考資料1	港区基本計画・港区実施計画
参考資料2	提言の構成(様式)
参考資料3	前回提言書(防災・生活安全分野)

■会議要旨

(開会)

リーダー、サブリーダーが開会時間には不在だったため、事務局から開会の挨拶を行った。

1 前回(第4回グループ会議)の振り返り(事務局)

事務局より、配布資料1に基づき、前回会議の振り返りを行った。防災に関するテーマは第7回目の会議で提言(案)について議論することとし、今回(第5回)及び次回(第6回)の検討テーマは生活安全(防犯)になることを説明した。

2 第5回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料2に基づき、第5回グループ会議の進め方及び全体スケジュールについて説明を行った。

3 検討テーマ(生活安全(防犯))に関する議論

○検討テーマ(生活安全(防犯))に関する区の取組説明

危機管理・生活安全担当課長から、配布資料3に基づき、東京都全体の犯罪発生状況、区内の犯罪発生状況及び区の取組に関する説明を行った。

(主な意見等)

参加者：費用対効果という視点で、警察官の配置人数など、費用(人件費)に対してどれくらい効果があったなど、公表されていない理由はあるか。

事務局：人の命を守るという職務の性質を考えると、効果を数値で示すことは難しい面があるかもしれない。

参加者：個人的な意見にはなるが、犯罪件数が減っているのであれば、それに応じて警察官の人数を少なくするという議論もあっていいかなと思った。

参加者：詐欺被害について、犯罪組織は港区内に限らず、いろいろな場所を点々とすると思うが、その場合は何ができるのか。

事務局：自治体ができることは、詐欺被害に遭わないようにするための広報・啓発や、自動通話録音機の配布など、区民の防犯力向上の取組となる。

参加者：詐欺被害の場合は地域の特有性がないように感じる。

事務局：お金を取りに来るいわゆる「受け子」と呼ばれる人間が捕まることがあるが、「受け子」は詐欺組織の中核部の情報を持っていない。ただし、「受け子」が捕まることで、「受け子」になろうとする人が減る効果は期待できる。

事務局：詐欺の集団は、グループ間で情報のやり取りを行っているものと思われる。詐欺の電話も地域で集中的に狙われる状況がある。

参加者：特殊詐欺の実態として、被害に遭うのはひとり暮らしの方が多いのか、それとも家族と同居している方なのか、教えてほしい。

事務局：被害に遭う方は必ずしもひとり暮らしの方とは限らないが、家族と同居している方でも一人で家にいるときに詐欺電話を受けて被害に遭うパターンが多い。

参加者：詐欺集団はランダムに電話すると思うが、電話がかかってくるのは固定電話と携帯電話どちらの傾向が強いのか。

事務局：固定電話にかかってくる傾向にある。

参加者：電話の発信元を追っても、犯人を捕まえるのは難しいのか。

事務局：警察でも対策を行っているが、電話番号を複数持っているケースもあるようだ。

参加者：親の介護を行っていた際に、お金がなくなることがあった。見守りカメラを設置し、出入りする方含めて周囲に伝えたところ、被害が止まった。「見られている」ということが抑止力につながるのかなと思った。また、詐欺のような電話が自分の携帯にかかってくることもあり、「この電話番号をどのように知ったのか」と聞いたところ、リストを売っている会社があるとのことだった。「こんな変な電話があったけど、どう思う？」というように何でも相談できる相手がいるといいなと感じた。

参加者：高齢者の啓蒙活動の具体的な取組を教えてください。

事務局：広報紙での啓発や安全安心メールの配信、区役所から高齢者へ郵送物を送付する際に注意喚起のチラシを同封したりしている。また、各警察署でも新聞折込での被害防止の呼びかけを行っている例もある。

参加者：「私は大丈夫」という高齢者の方もいるが、そういう人も含め世代を広げて話題にしていくといいと思った。

参加者：港区の場合は知能犯罪（詐欺等）が多いという説明があったが、新たに始まった防犯カメラ貸出事業の活用について教えてください。

事務局：詐欺の場合は、自宅にキャッシュカード等を取りに来る例もある。防犯カメラを設置しておけば、映像に残るので対策につながると思う。

参加者：犯罪が減少していることについて、警察等の対策の効果として減っているのか、それとも世情そのものが落ち着いているのか、どのように捉えているか教えてください。

事務局：刑法犯認知件数減少の大きな要因として、防犯カメラの抑止効果が考えられる。

参加者：防犯カメラが抑止力になるという話があったが、高輪地区総合支所のテラスの花壇から花が盗まれることがあり、現在は立ち入り禁止になっている。区民向けに防犯カメラを貸与するなら、区の施設にも置いたらいいと思った。

参加者：特殊詐欺被害が無くならないということについて、いわゆる法律の壁があって対策が取れないというようなことはあるのか。

事務局：海外を経由するようなケースは、国内ではないため、様々な問題があると感じている。

○生活安全(防犯)に関する社会変化について

(主な意見等)

参加者：刑法犯認知件数に報告されていない潜在的な「非認知件数」もあるのではないかと。子どもが知らない人に声を掛けられるなどもあるが、具体的な被害に至らなければ犯罪として認知されない。

参加者：人口が増え、子どもの数が増えるということは、被害に遭う可能性のある子どもの数が増えることにもつながるのではないだろうか。

参加者：一人乗りの電動キックボード等の新しいモビリティについて、狭い車道（歩道）を走るなど、安全の面で心配なことがある。

参加者：新しい乗り物が出てきたときに、どういう動き方をするか分からないから怖いということもあるかもしれない。

参加者：皆さんから出た付箋の意見を眺めると、3つか4つのグループに分けられそう。

事務局：付箋でご意見をいただいたもののグループ分け（分類分け）は別途整理することとし、次に「将来像（めざすまちの姿）」の議論に入っていきたい。

○生活安全(防犯)に関する将来像(めざすまちの姿)について

(主な意見等)

ファシリテーター：付箋に書き出していただいた将来像について、一人ずつ伺っていきたい。

参加者：「被害者に寄り添う港区」とした。海外では、隙があるから犯罪者に狙われるという話をされたことがある。「隙があるから」と言われてしまうと、被害者にも非があったように思えてしまうが、悲しい気持ちになる。警察や区の犯罪被害者の相談を担う人は、被害者に寄り添うやさしい港区であってほしいと思う。

参加者：「何かおかしいなと思うことがあったら、誰に何を言うかがわかるまち」とした。何か変な人がいるなどか、大丈夫かなどか、110番しているのかなどか悩むこともあるので。

参加者：何事も「タイムイズマネー」、費用対効果だと思っている。改善点があったときには、すぐにやってみて、不具合があったときにすぐやめるというようなスピード重視がいい。手続き上複雑なこともあると思うが、スピード重視の行政、社会になるといいと思った。

参加者：「アップデートしたつながりで、オンラインでも実生活でもみんな安全に暮らすまち」とした。これまでの意見を聞いて、港区という場所だけでなく、オンライン上の安全もあると感じた。アプリ等を使って子育てなど、ご近所同士で助け合う仕組みや関係は必要だと思う。オンラインでも安全安心に関することなどをアップデートして、それが港区でうまく回るようなイメージで、みんなが安心して暮らせるようにしたいと思った。

参加者：「防犯について日常的に会話ができるようなまち」と考えた。防災に比べて、防犯について話題に出している人も少ない印象がある。日常的に「あそこで何かあったよ」とか会話できる、そんなまちがいいと思った。

参加者：「他人の子どもでも叱っていいまち」と「隣人の困りごとを見過ごさないまち」というイメージが湧いた。隣の人や近所の人との繋がりが希薄だなと感じている。近所で中学生がタバコを吸っていても、見て見ぬ振りをしてしまう時があるが、他人の子どもでも、中学生がタバコを吸ったら怒れるようなまちがいいと感じた。また、困っていること、「こんなことがあって、こんな電話あったよ」ということをお互いに言い合える関係性をつくっていける、そういうまちがいいと思う。

参加者：防犯カメラの抑止力の話があったが、インターネット上になると難しい面がある。オンラインの世界でも安心が守られるようなことができればいいと思った。

参加者：防犯について特に意識することなく、安心して暮らせることが大切だと思う。何かあったら相談というのも大事だが、究極は、「あまり意識しなくても安心して暮らせるまち」かなと思う。地域のコミュニティで穏やかなつながりを持ちながら、他人に声を掛けることができる社会がいいと思う。

○生活安全(防犯)に関する課題について

(主な意見等)

ファシリテーター：付箋に書き出していただいた意見について、取組の方向性にもつながってくるので、グループ分けができればと思うが、ご意見をいただきたい。

参加者：「人の目」という付箋について、「人の目」があって課題なのか、「人の目」がなくて課題なのか伺いたい。

参加者：防犯カメラはあちこちに設置されているが、「そこまでしっかりとチェックしないだろう」

と思ったら、(見られているという緊張感が) 緩んでくるのではと考えた。そのため、「生
の人間の目がちゃんと見ている」「ご近所の目が見ている」が必要という意味で記載した。
防犯は「人と人」ということだと思う。

参加者：「置き配・宅配」の記載の趣旨について教えてほしい。

参加者：同僚が自宅に届けられた荷物（玄関前に配達される「置き配」）を盗まれるという被害に遭
ったという話を聞いた。品物が手に取れる場所に置かれていることで、意図しない犯罪発
生の種を蒔いてしまうことになってしまうのかもしれないと思った。

(以後、ファシリテーターの進行のもと、ホワイトボードの付箋の意見について、メンバー相互が確認
し合いながら大枠のグループ分けを行った)

○生活安全(防犯)に関する具体的な取組について

(主な意見等)

ファシリテーター：書いていただいた付箋の意見について、コメントや質問等をいただきたい。

参加者：防犯メンターの創設のアイデアについて教えてほしい。

参加者：コミュニティの中には影響力のある方がいると思う。そういう方々が防犯に関するメンタ
ー（助言者）の役割を担っていただいて、それぞれのコミュニティに働きかけることで、
今出ている取組案のいくつかが網羅できるんじゃないかと感じた。

参加者：防犯効果を数字で示すことも大事だと思う。今何が起きているかを共有することで意識が
変わると思う。

参加者：高齢者にはデジタル弱者もいるので、詐欺電話対策として電話にシールとかを貼ることも
いいのではと思った。

参加者：自衛の防犯組織のようなものも必要かもしれない。

参加者：地域をパトロールしている人がいると思うが、どういった人たちか。

事務局：町会などの自主的な防犯パトロールのほか、子どもや女性の見守りなど、区内の安全安心
のための青色防犯パトロールや客引き対策として生活安全パトロール隊も行っている。

参加者：盗難対策は、配送などの民間企業は保険に加入していると思うので、何かあったときの対
応はその企業に任せるなど、対策をしないことも対策という考え方もあるのかなと思った。

参加者：昔だったら屋台が出ていることもあったが、夜にキッチンカーなどが出ることで人の目が
増え、防犯につながるかもしれない。

参加者：東京都が以前、繁華街の環境浄化作戦をやっていた記憶がある。

事務局：警察では盛り場対策と言って、現在も、都内の主要な繁華街を指定して、違法風俗営業店
や客引きの取締りなどの対策に力を入れている。港区では六本木、赤坂、新橋が該当する
が、以前、特に六本木では集中的な対策が実施されたと聞いている。

ファシリテーター：付箋に書き出された意見について、区民の参画や協働の視点はどうか。

参加者：取組自体が参画と協働に当てはまるものもあるのではないか。

事務局：参画と協働とは、区民の皆さんがどのように取組に関与できるかというものになる。ご意
見のとおり、皆さんから出た取組のアイデア自体が区民の参画と協働につながるものがある。

ファシリテーター：それでは、参画と協働については具体的な取組から導いていくこととし、次に意見をグル
ープ分けし、取組の方向性を確認していきたい。

(以後、ファシリテーターの進行のもと、ホワイトボードの付箋の意見について、メンバー相互が

確認し合いながら大枠のグループ分けを行う)

参加者：取組を大きく分類すると、「情報発信」、「意識」、「ハードの抑止対策」、「ソフトの抑止対策」、「ネットワーク」に分けられると思う。

(参加メンバー同意)

ファシリテーター：次回は今回の議論を踏まえ、提言の作成に向けて内容をブラッシュアップしていくこととしたい。

4 その他

参加者及び事務局から第5回グループ会議を振り返って感想を述べた。

事務局より次回開催日程及び今後のスケジュール等の確認を行った。

(閉会)

リーダーが第5回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月12日（月）18時30分～20時40分

会場：港区役所9階914会議室

メンバー：参加者6名（欠席者2名）

【内訳】対面参加6名

※途中退出1名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第5回グループ会議）の振り返り
- 2 第6回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマ（生活安全（防犯））に関する議論
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議 会議録
2	第6回グループ会議の進め方
3	生活安全（防犯）の議論の整理表

■貸与資料

資料番号	資料名
参考資料1	港区基本計画・港区実施計画
参考資料2	提言の構成(様式)
参考資料3	前回提言書(防災・生活安全分野)

■会議要旨

(開会)

リーダーから開会の挨拶を行った。

1 前回(第5回グループ会議)の振り返り(事務局)

事務局より、配布資料1及び配布資料3に基づき、前回会議の振り返りを行った。今回(第6回)は、生活安全(防犯)のテーマについて、前回会議の内容を基に内容をブラッシュアップしていくことを確認した。

2 第6回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料2に基づき、第6回グループ会議の進め方について説明を行った。

3 検討テーマ(生活安全(防犯))に関する議論

○前回(第5回)の議論のまとめについて

(主な意見等)

参加者：取組の分類について、「発信・意識」、「ネットワーク」、「ハード面の抑止策」としているが、防犯メンターやバディシステムなど、「発信・意識」と「ネットワーク(ソフト面の抑止策)」で相互に関連し、重なるものもある。まとめ方はもう少し工夫できるかもしれない。

ファシリテーター：今日の議論の主題である取組内容の検討、ブラッシュアップのとき間の中で分類についても意見をいただき、考えていければと思う。

参加者：現状のまとめ(資料3)は意見の羅列になっているが、提言の中でも「絶対にこれをやってほしい」というようなことをどのように見せることができるのか。費用対効果が高いものなど、「ぜひやってほしい」という取組について、区が意図的に「やらない」ということにつながるのを避けたい気持ちがある。

ファシリテーター：提言の中での優先順位や重みづけという意味合いで理解したがよろしいか。

(発言者了解)

ファシリテーター：現在はフラットに意見を並べているが、第2グループとして「ここは力を入れたい」というようなことは考えていけると思う。取組内容に関する議論の中でもご意見をいただければと思う。

参加者：「置き配」という意見についてどういう文脈で出されたものか、確認したい。

参加者：「置き配」という仕組みがあることで、犯罪(盗難)を誘発することにつながるのではないかという意見である。「置き配という仕組みがなければ、盗むこともなかったのに」ということも言えるのではないか。

参加者：趣旨は共感する。現状の資料3では、「その他」に分類されてしまっているが、社会変化の項目に入れてもいいと思った。

ファシリテーター：今のご意見も踏まえながら、次の社会変化の項目の議論に入っていきたい。

(メンバー同意)

○社会変化の分類について

ファシリテーター：資料3に記載の社会変化の分類や内容について確認していただき、追加意見や修正等があればお願いしたい。

参加者：防災に関するテーマの議論と地域コミュニティの項目は同じだが、その他の項目は違う観点で出されており、ある程度出揃ってる印象がある。

参加者：「犯罪の国際化」という分類について、今の表記だと外国人が犯罪をしているというようなイメージがしてしまう。港区で善良に暮らしている外国人で、「犯罪被害に遭ってどこに相談したらいいか」とか、母国で被害に遭うよりも不安な気持ちになったりすることもあると思う。外国人が港区で被害にあったときに、手厚く、言語も含めて相談に乗ってあげられるような窓口というか、システムがあればいいと思う。

ファシリテーター：現状の分類では、犯罪をする側の国際化の視点だと思うが、犯罪被害に遭う人も国際化しているということも追加した方がいいという意見である。

参加者：現在の「犯罪の国際化」の意味としては、犯罪の手口が国境を越えるとか、ネット詐欺が外国を経由している話もあったので、出てきた分類だと思う。港区に外国人が増えたから犯罪が増えているということ在意図する意見ではないと思う。

参加者：今の表現のみを見ると、外国人が犯罪を行っているような誤解が生じるかもしれないと思った。文字のインパクトがある。

参加者：「外国人の住民が増えていることに伴い、支援の幅が複雑化している」など、「犯罪の国際化」に加え、もう一つ項目を追加するといいかもしれない。

参加者：警察官にも語学が必要だと思うが、翻訳ソフトを使えばある程度意思疎通はできると思う。外国から仕事で日本に来るのであれば、ある程度日本人とコミュニケーション取ることも求められる。

参加者：海外で生活したことがあるが、同僚が犯罪被害に遭った際、地元の警察を呼んだが、スムーズにいかない扱いを受けた経験がある。犯罪被害を受けた人が悪いのではなく、それを受け入れる社会の力が本当に大事ではないかと思う。

ファシリテーター：いまの議論を踏まえ、「犯罪の国際化」とは別に、「外国の住民が増えている」という趣旨の社会変化を外出しする整理にしたいと思うが、いかがか。

(メンバー同意)

参加者：「デジタル化」は直接的な社会変化と言えるかどうか。デジタル化によってインターネットが普及して未知なる犯罪が増えるともいえる。デジタル化が犯罪に結びつくというのは違和感がある。

参加者：「デジタル犯罪の出現」というイメージか。

参加者：従来とは違った犯罪の新しい形のようなものというニュアンスである。

参加者：デジタル化してきたことによって、人が情報をデジタル上にどんどん入れるようになり、それを起点に犯罪が起こるような状況であると思う。「インターネット（SNS等）上における広範囲のつながり」の分類ともやや被る。

参加者：デジタル犯罪と情報がネット上（デジタル上）にばらまかれるという二つの側面がある。

参加者：「デジタル上での犯罪の増加」というような括りにして、細かく分類しなくてもいいかもしれない。あえて並列に列記するという方法もあるかもしれない。

参加者：例えば、リアルな社会で防犯で家に鍵をかけることは、当たり前前の共通意識として持っている。一方、デジタルの領域では個人の知識量に差があり、共有化できていない。デジタル社会の知識の有無における防犯意識の開きが、漠然とした恐怖につながっているようなことも言える。

参加者：デジタルという空間でも犯罪は起きるし、そこでは自分が持っている知識量によって被害

に遭うリスクも高まる。例としてはフィッシング詐欺などが挙げられる。

参加者：自分の身を守るためには、リアルの世界での自衛の仕方とデジタル上での自衛の仕方が必要だ。

参加者：社会がデジタル化していくことに伴って犯罪にも変化が起き、それをキャッチアップすると人とそうではない人がいる。デジタル化の進展に伴い、デジタル上の犯罪が増えているということ。社会変化という意味では、この程度のレベル感の方がしっくりくるかもしれない。

ファシリテーター：確認したいが、社会変化のまとめとして、個々に出された意見について、ある程度分類はした方がいいか、羅列にするかどちらがいいか。

参加者：その後の取組の方向性につながっていくのなら分類した方がいいと思う。ただ、分類のための分類の議論になるのであれば、無理して分けなくてもいいかもしれない。

参加者：社会変化の分類は議論を通じてメンバーである程度共通認識を持てたと思う。「犯罪の国際化」は、犯罪被害に遭う外国人もいることから、「外国人が増加している」という趣旨の項目を切り離すこととし、「デジタル化」と「インターネット」の社会変化は共通する部分も多いのでくっつけてもいいかもしれない。

参加者：意見が羅列されるよりも、ある程度の分類、ラベリングがあった方がわかりやすい。資料3に記載の分類もしっくりきていると思う。

ファシリテーター：それでは、社会変化については、資料3の分類をベースに、「犯罪の国際化」に関する意見（外国人が犯罪を行っているというイメージにならないよう、「外国人住民が増えている」という趣旨の社会変化を切り分ける）や、「デジタル化」と「インターネット」の分類をくっつけるというご意見を踏まえ、加筆修正が必要な点是对応することとし、次の「将来像」の議論に入っていきたい。

(メンバー同意)

○将来像について

ファシリテーター：生活安全（防犯）のテーマについて、今回はメンバー一人ひとりからめざす将来像の意見をいただいた。提言の中で強調したい点等があれば意見をお願いしたい。

参加者：防災に関するテーマを議論した際には、将来像をどのように整理したか確認したい。

ファシリテーター：「つながり」など重要なキーワードを確認して、将来像の方向性について共通認識を持った。

参加者：今出されている将来像はそれぞれ良いことが書いてあると思うが、共通する内容など、ある程度グルーピングした方が分かりやすいか。

参加者：今出されている将来像の中でも内容が被っているものがある。数としてはこれ以上増えることはないと思うが、どうだろうか。

参加者：提言につなげるのであれば、グループ化してもいいと思う。コミュニティなど共通するものもありそう。

参加者：個々に意見を出した将来像について、社会変化にも対応し、構造として理由と原因になるようにロジックを整理し、しっかりグループ分けするのは難しいかもしれない。将来像については、ある程度ふわっとしていても違和感はない感じがする。取組の方向性が提言の肝になると思う。

事務局：提言書でのめざす将来像は、「〇〇なまち」という主題と、説明書きを付記するような構成となる。キーワードのようなものや強調したい内容など、ある程度のまとまりを整理する

ことで、提言書につながりやすいかもしれない。

参加者：デジタルに関することなど、足りない要素を含めて意見を出す方向でいいと思う。

ファシリテーター：強調したいことなどあれば、ご意見をお願いしたいと思うが、いかがか。

参加者：犯罪の国際化が社会変化としてあるなら、地域コミュニティの国際化もあると思った。外国人でも高額納税者はたくさんいるし、彼らに対するサービスも大切だと思う。

参加者：「老若男女みんな安全に暮らせるまち」という将来像の意見があるが、その中に「国籍問わず」のような一言を加えるのはどうか。

参加者：港区で長く働いているが、外国人の存在を当たり前を感じる環境にいる。港区で外国人対応に欠けているようなイメージがなかったが、何かあるのだろうか。

参加者：外国人が交番に行ったときに英語を話せない警察官もいると思う。日本語が話すことができないと、トラブルが起きたときにどうしたらいいかわからずに、可哀想な目に遭うこともある。

ファシリテーター：他の参加者の皆さんの意見はいかがか。

参加者：今の議論であまり違和感はない。具体的な取組について議論していく中で、必要に応じて将来像についてフィードバックしてもいいと思う。

ファシリテーター：進め方の確認をさせていただきたい。この後の具体的な取組に関する議論の中で、気付き等があれば必要に応じて将来像に戻って議論することとしたい。また、仮にこれ以上めざす将来像について意見が出なかった場合、これまで議論いただいた内容を基に事務局で案を作り、次回提言書案の形で確認していただくという流れで問題ないか。

(メンバー同意)

○具体的な取組について

ファシリテーター：次に、具体的な取組に関する議論に入っていきたい。前回（第5回）の議論では、皆さんから出された意見について、「情報・発信」、「ネットワーク（ソフト面の抑止策）」、「ハード面の抑止策」に大きく分類した。提言の作成に向け、現在出されている内容に関し、見直しや強調したいこと、共通する事項、新たな取組など、意見を伺いたい。また、「区民の参画と協働」の視点についてもどのように取組に反映できるのか確認していきたい。

参加者：防災に関する議論のときは、「ネットワーク」や「ハード面」という方向性の分類のタイトルはどのくらいの粒度で落ち着いたのか確認したい。

ファシリテーター：防災の方向性については、議論の中で当初「区と区民をつなぐ新たなコミュニティやツール」と「個人の防災・災害に対する意識改革」という大きな分類がされた。ただ、その後「これは方向性というよりもテーマなのではないか」という議論になり、方向性の分類のタイトルについては提言の作成の中で整理することになっている。生活安全（防犯）の取組の方向性については、現状では「情報・発信」、「ネットワーク（ソフト面の抑止策）」、「ハード面の抑止策」としているが、重複等も含めて確認していただけたらと思う。

参加者：防犯メンターとボディシステムの意見は重なる部分があるか。

参加者：意図して同じ意見になったというわけではないが、多分同じゴールを成し得るものなので、重なる部分はあると思う。

参加者：現状で方向性が3つ出ているということは、参加者が共通して必要だと、ある程度すり合わせできているような認識でいる。「発信」は、正しい情報を伝わるころまで発信しきる、そのためにやれることはあるということ。「ネットワーク」は横のつながりは防犯でも生き

- てくるということ。ハード面、ツール面を工夫するともっと抑止力は高まるということ。
- 参加者：防災では、自然災害を抑止することは難しい。防犯は横のつながりやツール、ハード、情報の発信で抑止できるということでは、現状の分類は悪くない気がする。内容で被っているものはあるかもしれないが。
- 参加者：方向性の分類に関する話ではないが、「前回の提言と同じ」と言われてしまうのは避けたい。取組の効果を示す数値や指標があるといいと思う。行政がしっかりやってるかどうかは、今回タウンフォーラムの会議に参加するまでよくわからなかった。もしかすると、提言の内容としては前回（3年前）と似通ってしまうかもしれないが、「これを実行したから数値がこれくらい改善した」というようなものがあればいいなと思う。何を数値化できるかは分からないが。
- 参加者：前回の提言の中で、実際に施策化されて実施しているものがあるかどうか。内容が似ている提言になってしまうのは、同じ課題感を持っているとも言える。提言全てを実施することはできていないかもしれないが、前回と同じ内容のものが再度出てくるのであれば、「区長がここからやろうかな」と思ってもらえることにつながるかもしれない。それはそれで意味があると思う。前回提言と違うものを出そうというのも難しいかもしれない。
- 参加者：前回と内容が重複するとしても、指標や具体例などプッシュしたいことを提言に入れるのはいいかもしれない。
- 参加者：提言内容は同じでもいいかもしれないが、「前回 20%だった実績が 25%になった」とか「これまでは予算が 1,000 万かかっていたが、今回は 500 万で済んだ」とか効果が示せるといい。民間企業みたいにはいかないだろうが、行政もそうあるべきだと思う。
- コーディネーター：取組の効果が分かる数値や指標について、区民にも分かるように情報公開、共有をしっかりとやっていくべきで、その趣旨を提言に盛り込むというような意見かと思う。
- 参加者：「区民の参画と協働」の項目の中に入れればいいのかではないか。前回の提言も含めて、次（3年後）のタウンフォーラムの分科会に提言の進捗状況を引き継ぐようにすると思う。数値で効果が分かるものなどもある。区民の参画という視点で提言に入れたらいい。
- 参加者：提言をした後の進捗についても共有してほしいということ。
- 参加者：前回の提言と内容が重なる項目はそれだけニーズがあるということ。しっかりとやっていくべきというメッセージになる。情報発信に関することなどは、前回の提言でも出ているので、言い続けることも提言の役割なのかなと思った。
- 参加者：事務局に聞きたいのだが、提言への区の回答はどういうかたちで把握できるのか。
- 事務局：来年秋頃には港区基本計画の素案を区民に示すことになるので、その際にタウンフォーラムの皆さんにも、提言への反映状況について説明させていただく段取りになっている。実際の基本計画の文言は抽象度が高いレベルになってしまうかもしれないが、提言について「この項目に反映しました」とか、「○○○○という提言をダイレクトに反映することは難しかったが、ここの文言に趣旨を入れました」など、説明させていただく場を設ける。前回の提言を踏まえ、青色防犯パトロールのように現在取り組んでいる事業もあるが、今の議論のように、「効果を数値で示す」というようなことは前回の提言には入っていない。
- 参加者：「参画と協働」の項目の中に、提言の進捗についても効果（数値）や取組状況を公開し、次の分科会に引き継ぐというようなことを入れる方向でいいと思う。
- コーディネーター：その他の意見はいかがか。
- 参加者：「抑止」をキーワードに方向性が整理できているのは非常にいいと思った。「ハード面の抑

止策」の防犯カメラは効果があるので、区の防犯カメラ貸し出しサービスの開始にもつながったのだと思う。一方で、あまり監視されたくないという気持ちもある。将来像の項目に「映らない防犯」という言葉も出ているが、うまくバランスをとりながら抑止ができるということが大事になってくる。防犯カメラを設置していることを皆が知ることで抑止につながると思うので、伝えるということとの関連が大事になると思った。

参加者：防災と生活安全を同列に語っているのはどうか。区のホームページでも、何年に一度起こるかどうかわからない防災と、日々起こっている防犯が一緒の分類になっている。発信という形で、しっかり分けた方がいいのではないかな。発信の仕方も変わってくる。

ファシリテーター：今の意見は、発信の項目の中で、いつ起きるかわからない災害と、日常的に起きている防犯のところを切り分けてわかりやすく発信しましょうということか。

参加者：生活安全（防犯）として発信を目出すということ。現在、パディシステムや防犯メンターのアイデアは「発信・意識」に分類されているが、「ネットワーク（ソフト面の抑止策）」の方に移るのかもしれない。そうするとプッシュ式の通知など、発信系のアイデアで固まる。「意識」は次のステップだと思われる。

参加者：発信ということに関して、プッシュ式の通知は非常に大事だと思う。区は様々な良い取組をやっているが、「知らなかった」ということを改めて感じている。そのため、プッシュした情報がしっかり伝わっているかという工夫も必要。情報が雑多に出てくるとわからなくなってしまう。大切なコンテンツを伝える工夫が大切だと思う。

参加者：民間の参画でそこを埋めるということにつながるかもしれない。情報とインフラもありプッシュでお知らせしても、その情報を広めることについては行政でも限界がある。「我々ができることってどういうことなんだろう」ということにつながっていく。

参加者：他の自治体はわからないが、港区は割とコンテンツも整理されて発信されている印象がある。むしろ多いくらいかもしれない。

参加者：情報が多過ぎて日常生活が嫌になってしまうので、個人的にあえて行政からの情報は入れないようにしている。

参加者：取捨選択ができるということも大事だと思う。情報に気付いてない人たちがたくさんいるので、そこにリーチしたいなという思いがある。情報を知った上で、必要がないというのは個人の判断になってくる。

ファシリテーター：「発信」の方向性の分類について、要素やエッセンスとなり得るキーワード等はあるか。

参加者：「多様な受け手を意識した情報発信」や「発信手段の多様化」、「情報がしっかり届いているか」というような趣旨が入るのではないかな。そして、「情報が届くように改善、工夫する」というようなことだと思う。情報はあるけど、必ずしも受け手が皆同じツールでわかりやすいとは限らないので工夫する。最終的に発信の頻度を上げるということになるのか、発信チャンネルで工夫するのかということもあるが。

参加者：防災の議論のときと同じかもしれないので、同じ言葉を使ってもいいかもしれない。情報はあがるが受け手が多様化している。だから、もう少し伝わるように工夫が必要という共通の課題だと思う。

ファシリテーター：「情報」の方向性は、今の議論を踏まえてまとめていければと思うがよろしいか。

(メンバー同意)

ファシリテーター：「ネットワーク（ソフト面の抑止策）」と「ハード面の抑止策」の分類についても意見をお願いしたい。

参加者：抑止力、抑止策という言葉はいいと思う。地域コミュニティなどのネットワークでの抑止とハードでの抑止、括りとしてはいいのではないか。

参加者：「人と人との繋がりによる犯罪の抑止力向上」とか。

参加者：確かに、ネットワークというよりも「人と人とのつながり」というのはいいかもしれない。

参加者：現在の議論は区民が考えているものだが、この中で行政がすでに取り組んでいることなどがあれば教えてほしい。

事務局：広報紙は月に3回発行しているが、そのうちの1回(11日号)では、安全安心コラムといって防犯の情報を掲載している。また、特殊詐欺については、広報紙の一面で大々的にお知らせすることもある。

参加者：「こういうことで困っている」というようなことを登録しておいて、それをマッチングするようなバディシステムのようなものはあるか。

事務局：ダイレクトに対応するような取組は把握がない。

参加者：高齢者の見守りについて、港区の取組が新聞に掲載されていた記憶がある。

事務局：港区では、コンビニエンスストアや郵便など、地域に密着した企業の力を借りて、地域の見守り活動を行っている。高齢者宅も含め、郵便物がポストから溢れているなど異変を感じた際には通報してもらうような取組である。

参加者：広報みなどは毎回読んでいるが、自分には関係ないと思って読み飛ばしていた。防犯の情報があるということを知った。

事務局：区としても「伝わる広報」を意識し、工夫を重ねなければならない。

参加者：皆さんは、広報紙をデジタルで見ているのか。

参加者：区に登録すると郵送で届けてくれる。

事務局：登録していただければ、個別に送付させていただいている。新聞折込でも配っている。

参加者：新聞も取っていないし、登録すると送付してもらえることを初めて知った。

参加者：ホームページからも登録できる。

参加者：事務局に聞きたいが、他にも今の議論の中で取り組んでいることなどがあれば教えてほしい。

事務局：地区の町会や商店会、企業が横の連携をして、パトロールをしている。地区の町会や商店会などが参加する各地区生活安全・環境美化活動推進協議会がそれに当たる。警察官と一緒に回るようなこともある。実際に地域の方がパトロールして、「ここは暗いから防犯灯が必要だね」というような意見が出れば、行政の対応につなげるということもやっている。

事務局：防犯カメラの設置については、先ほどの意見のようにプライバシーとの関係を考慮する必要があり、街中に無制限に設置するという考え方にはなっていない。街頭の防犯カメラは、区が直接的に設置するのではなく、地域の町会や商店会の皆さんへの補助という形を取っている。

事務局：地域でのパトロールについて、犬の散歩のときにやってもらう「わんわんパトロール」や企業との見守り連携もあるが、直接的に犯罪抑止にどこまで繋がっているかという効果を示すことは難しいかもしれない。

参加者：拍子木を叩いて行うパトロールは、子どもにとっては楽しいかもしれない。絶対に参加しなければならないパトロールはハードルが高いが、気軽に参加できるようなものがあったもいいかもしれない。

事務局：前回の提言にもあったが、まちをきれいにすることは目が行き届いているということにつながるので、結果として防犯効果を高めるといった考えの取組もある。

参加者：誰でも気軽に参加できる地域パトロールのようなものがあればいいかもしれない。

ファシリテーター：「ソフト面の抑止策」の意見は出ているが、「ハード面の抑止策」についてはどうか。また、「この取組は参画と協働につながる」というような意見もあればお願いしたい。

参加者：地域パトロールへの参加は参画と協働そのものだと言えると思う。歩いているうちに他の参加者と会話も生まれるし、知り合いができることにもつながる。めざす将来像にも近づく。

参加者：参画と協働という意味で、情報発信の受け手の多様化で、受け手は募ってもいいのではないかな。

ファシリテーター：どういう発信をしてくれたら「私たちは情報を受け取りやすいか」というようなことを区民が考えるという意味か。

参加者：一緒に考える場をつくるというようなことも参画と協働と言えるかもしれない。

参加者：ネットワークの内容について、毎日同じ時間に夜回りして効果があるのかということと少し違う気もするが、誰でも気軽に参加しやすいパトロールはいいかもしれない。既存の町会等が実施するパトロールに参加するのはハードルが高いと思うが。

参加者：地域パトロールを誰でも手軽に気軽に参加できるようにするということだと思う。犬の散歩や、軽くジョギングとするとかでもいいし、ちょっと夜景を見ながらとか、楽しい部分を入れて防犯の意識付けをする。そういう人たちが動いているところでは、犯罪が起こりにくいことにつながると思う。「地域パトロールの多様化、間口を広げる」とかそういう表現がいいかもしれない。

ファシリテーター：地域パトロールは、方向性として「人と人との繋がりによる犯罪の抑止力向上」に分類できると思う。ハード面についての意見はいかがか。

参加者：ハードという言葉がいいのか、インフラという言葉がいいのか、ツールという言葉がいいのか、分かりやすさは人によって違うかもしれないが、言おうとしては分かる。

参加者：ソフト、ハードの対比の表現よりもインフラという言葉の方が分かりやすいかもしれない。デジタルの話しも含まれるし、防犯のインフラという意味として。

参加者：地域でパトロールをするときに、警察官と一緒に回ってほしいとお願いすることは可能なのかな。

事務局：警察としても地域の防犯活動には協力する姿勢を持っている。警察署との相談になると思うが、趣旨や内容等をしっかりと説明できれば、無下に断られるということはないと思う。

参加者：マッチングアプリで、お巡りさんと一緒にパトロールしたいというような仕組みがあると面白いかもしれない。

参加者：お巡りさんと一緒に自転車に乗ってパトロールできるとかも面白い。

ファシリテーター：その他はいかがか。

参加者：企業にやってもらうことや連携の視点はどうか。防災のときは意見があったが、生活安全（防犯）では出ていない。

参加者：防犯のためにキッチンカーを出してもらうようなこととか。

参加者：インフラ面で企業との連携は考えられるか。

参加者：緊急時に駆け込める場所があるといい。コンビニはあるが、オフィスやビルにも駆け込むことができればいい。

参加者：マッチングの仕組み等は企業の力を活用できると思う。

参加者：分類はどうするか。

- ファシリテーター：緊急時の駆け込みやマッチングであればインフラの分類に、地域の企業が地域とパトロールするみたいな話であれば、ソフト面の分類になってくるかもしれない。
- 参加者：子どもが特定の場所を通過したら親の携帯に通知が来るような居場所が分かるような仕組みもある。見守りという意味では、防犯カメラ以外にも柔軟に考えることができるかもしれない。
- 参加者：出された取組のアイデアの中で、毎年数値化して、成果が見える化できるものはあるか。地域パトロールの参加人数の推移とかは情報公開しても問題ないと思うし、ハードルは低そう。個人情報やセキュリティの関係で難しいものは仕方がないと思うが。
- ファシリテーター：今日の会議の最初に意見があったが、取組の中で、優先順位等の視点はどうか。
- 参加者：我々が見てやりやすそうなものは、行政サイドから見てもやりやすいのかなと思う。プッシュすることに繋がるのかなと思うがどうか。
- 参加者：発信のところは、どの程度効果があったかなど成功状態（目標）を定義してほしいということ。提言することも重みづけと言えるのではないだろうか。施策は何であれ、成功状態を定義してからやってほしいということ。それに対しての数字だと思うので。
- 参加者：人と人とのつながりの議論では、地域パトロールが盛り上がった。「地域パトロールの多様化」ということで、今やってるものを拡張してやってほしいとか、できると思う。
- 参加者：区民が参画する取組について重みづけしたらどうか。
- 参加者：区民の参画という意味では、ハード面についても情報共有のための仕組みとして、犯罪情報や困ってる情報をなるべく一元管理して使いやすくしておくのは、必要かもしれない。
- 参加者：犯罪には至らず、警察に言うほどのものではないが、生活の中で不安な情報はある。不審な車がずっと止まっているという情報など。
- 参加者：個々の情報にはあまり意味がなくて、大量にいろんな情報が出てきたときにどう伝えるかは結構難しいかもしれない。
- 参加者：情報の共有化、集められるインフラとなると行政で頑張ってもらって、精度を上げていくということかもしれない。
- 参加者：一番大事なのはきっかけづくりだと思う。これまでの意見にもあったように、プッシュ式で区民に通知するなど、情報を確実に届けていくようなきっかけがあればいい。そのきっかけによって、取組に参加しようという人を増やすようなことがあるといいと思った。最初の一步が本当に大事なんだという気がする。
- ファシリテーター：今日の議論を踏まえて、事務局で提言書（案）を作成することとしたい。

4 その他

参加者及び事務局から第6回グループ会議を振り返って感想を述べた。

事務局より次回開催日程及び今後のスケジュール等の確認を行った。

(閉会)

リーダーが第6回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月26日（月）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階研修室

メンバー：参加者7名（欠席者1名）

【内訳】対面参加6名、オンライン参加1名

※途中退出1名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第6回グループ会議）の振り返り
- 2 第7回グループ会議の進め方について
- 3 提言書案について
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議 会議録
2	第7回グループ会議の進め方
3-1	提言書案(テーマ1：区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組みづくり)
3-2	提言書案(テーマ2：災害に関する個人の意識改革)
3-3	提言書案(テーマ3：生活安全(防犯)における抑止力向上)
4	防災に関する議論の整理表
5	生活安全(防犯)に関する議論の整理表

■貸与資料

資料番号	資料名
参考資料1	港区基本計画・港区実施計画
参考資料2	前回提言書(防災・生活安全分野)

■会議要旨

(開会)

リーダーから開会の挨拶を行った。

1 前回（第6回グループ会議）の振り返り（事務局）

事務局より、配布資料1に基づき、前回会議の振り返りを行った。今回（第7回）は、事務局で整理したテーマごとの提言書案について、これまでの議論であった委員の意見等の内容が反映されているかの確認作業を行うことを説明した。

2 第7回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料2に基づき、第7回グループ会議の進め方について説明を行った。

3 提言書案に関する議論

○テーマ1の提言書案について

(主な意見等)

ファシリテーター：テーマ1の提言書案を確認してほしい。

参加者：提言書に記載されるのはどこの部分なのか。

ファシリテーター：黄色マーカーの「メンバーからのご意見」を除いた部分が全てこのまま記載される。

ファシリテーター：一人ずつ意見を聞きたい。

参加者：じっくりくると思った。能動的に動ける人を増やすというのは、これまでの意見を反映していると思うし、他のところも違和感ない。

参加者：議論をよくまとめられていると思う。施策の方向性で住民や企業をつなげると記載されているので、具体的な取組で企業とのつながりの記載をもう少し委員からの意見を反映させてもいいのではと思った。

参加者：テーマ1、2、3に共通しているものも多かったと思うが、どのようにまとめられるのか気になった。

ファシリテーター：区民と参画について、テーマ1、2、3共通項として記載しているが、それ以外にも何か記載したほうがいいのか。

参加者：区民と参画が共通項としてまとめられるということで了解した。

参加者：施策の方向性に○や△が記載されているが、これは符号として使用されているのか、優先順位的なものを表しているのか。

ファシリテーター：符号として使用している。同じ符号で内容をリンクさせている。

参加者：具体的な取組の住民と企業とのつながりづくりについて、メンバーからのご意見で未利用資源の活用や港区から見たときにまだ活用できていない資源があると思うと意見されている。関連するエピソードとして、近所にある防水施設がどこの施設なのかわからなかったが、区に確認したところ、区の施設と判明した事例があった。マンションの敷地にあるので住民はマンションが管理していると思っていたし、町会は町会のものだと思っていた。防災施設をどこが所有してどこが管理しているかの洗い出しが必要だと思うので、区が先導して取り組んでほしい。

参加者：基本的に意見は反映されているかと思う。些細なことではあるが、課題の文末を統一したほうがいいかなと思った。

参加者：問題なく反映されているかと思う。ニュアンス的なところで、情報発信すると書いてあるが、情報発信はいろいろしているが、それをしっかりと相手に届けるというようなニュアンスがあるといいのかなと思う。

参加者：抜け漏れという観点からするとないかなと思う。テーマ1、2、3全体のまとめをどのようにまとめるのか。最後に次はこういうことをしたいなどを盛り込むなど、テーマ全ての確認が終わってから再度議論したい。

ファシリテーター：将来像と社会変化、課題については、文末表現を再度確認するが、おおむね内容は漏れなく反映されているということでもいいか。

(メンバー同意)

ファシリテーター：具体的な取組について、みなさんから出た意見について、いかがか。

参加者：区内には多くの企業があり、それぞれしっかりとBCPの計画を作っていると思うので、そこと連動できるような、それがまた未利用資源の活用にもつながると思う。企業側からみても、地域コミュニティに貢献するということは重要な施策になると思うので、区から申し出があれば協力・協働できると思う。

参加者：企業の中でしっかりとそういうものを作っているわけだから、それを共有することは大切なことである。

ファシリテーター：住民と企業とのつながりづくりのところに文言は入っているが、もっとわかりやすく、例えばBCPとの連動をやっていくなどの内容を追加していく。防災施設の洗い出しについての追加はどうか。

(メンバー異論なし)

ファシリテーター：防災施設の洗い出しについても追加する。情報発信だけではなく、情報が欲しい人に届けられるというニュアンスを追加する点についてはどうか。

参加者：文書だけで伝わるのか疑問なので、具体的な事例を記載したほうがいいのでは。

情報を届けられるというニュアンスを追加することに異論なし。

ファシリテーター：情報が欲しい人に届けられるというニュアンスも追加する。事例を追加するのは、どこまで追加するか。

参加者：各セクションに事例を追加するとなったときに、事例あるなしが出てくるのであれば、最後にひとつセクションを作り、こういった事例があったので、こういう活動をしたいなど、最後に総括するのはどうか。

参加者：全てのセクションに事例をいれるということではなく、この会議の中で出てきた事例については、入れた方がいいのではと思う。

ファシリテーター：新たな事例を入れるというわけではなく、防災施設の事例を文中にまず入れるということでもいいか。

(メンバー同意)

参加者：社会変化では外国人に触れているが、他では触れていない。どこかに包括されているのか。どう考えればいいのか。

ファシリテーター：社会変化のときには意見として出てきたが、課題や取組では意見として出てこなかったという結果である。

(メンバー了解)

ファシリテーター：今回の内容を反映させ、第8回に再度修正したものを確認してもらおう。

○テーマ2の提言書について

ファシリテーター：提言書案について、一人ずつ意見を聞きたい。

参加者：特に問題ない。

参加者：反映されていると思う。

参加者：基本的にいいと思うが、成果指標のところで具体的に何の成果指標を設定しているのかわかりやすい事例があるといいと思う。防災は費用をかけても取り組まなければいけないこともあると個人的には思う。

参加者：具体的な取組の誰もが参加しやすい防災活動に関して、訓練に関する話が多かったと思う。「訓練」を「活動」と表現しているのは何か意味があるのか。

参加者：「防災イベントを企画・実施するなど」と表現されている。会議の中では実際に「やってほしい」という強いニュアンスだったので、もう少し具体的・断定的にしたらどうか。区民と参画の成果指標の具体例について、例えば防犯カメラを設定してどれくらい犯罪が減ったかなどは、わかりやすい事例だと思う。「参画と協働」の最後に確認できる場作りを行うと漠然と書いてあるが、ホームページでこの指標を出すなど、もう少し具体的にできればと思う。

参加者：この提言書案で特に問題ないと思う。

参加者：セクションとしては、この提言書案でいいと思う。テーマ1、2、3をとおして、これとこれはやってみるといようなものを、今までにない提言書として最後に入れられるといいのかなと思う。

参加者：提言書について、今後委員が検証できるようなことはどこかに書いてあるか。

ファシリテーター：区民の参画と協働に取組状況を確認できる場づくりと記載しているが、もっと具体的にということか。

参加者：議論した委員で検証・フィードバックできるよう、具体的に書ければいい。

ファシリテーター：取組の方向性のところで、防災活動になっているが、実際は訓練の話が出ていたということについてはどうか。

参加者：活動には遊びの部分も入れている意味と個人的には思っていたが、強く巻き込んでいくという意味では訓練を主眼においてもいいと思う。

(メンバー同意)

ファシリテーター：それでは、訓練に修正する。具体的な取組のなかでももう少し具体的・断定的に書いてもいいのではということに関してはいかがか。

参加者：企画・実施しても効果がないものでは意味がないので、もう少し頻度や参加割合などを入れた方がいい。

ファシリテーター：この提言書は区が作成するものではなく、このグループで作成する必要があるため、その具体的な内容もこのグループで決めていく必要がある。

参加者：現時点では具体的なものを出すのは難しい。

参加者：現時点では施策の方向性に基づいた取組が記載されているので、いいと思う。これ以上にもっと具体的にこれを強くやってほしいなど、最後に入れ込むのであれば、それに対して数値目標を入れ込むというのがいいと思う。もっと具体化しないと数値目標を入れることは難しいため、具体化するかしないかの議論はテーマ3まで終わってからでいいと思う。

参加者：例えば、次期タウンフォーラムメンバーへの引継ぎの課題として、数値目標を入れることなど、申し送り事項として残すことはできるのか。

事務局：残すことは可能である。メッセージ性のあるものについては、文頭の提言に当たってというところが、グループの思いを述べるところになる。

アドバイザー：異論がなければ、提言書の最後にセクションを追加して数値目標などを入れるかについては、テーマ3までの確認が終わってから再度議論することにする。このほかのことについては問題ないか。

(メンバー同意)

○テーマ3の提言書について

アドバイザー：テーマ3の提言書案について、一人ずつ意見を聞きたい。

参加者：基本的には問題ない。区民の参画と協働のメンバーの意見で、どうしたら情報を受け取ってもらえるか考えるとある。情報発信をしても本当に相手が受け取ったかを確認する方法として、今回私は防災ラジオの申し込みをしたが、そのような手続きをした区民に対して、どこで情報を知ったのかを聞くことで検証もできるし、区民もそれに答えることで参画することにもなると感じた。

参加者：この提言書案で特に意見はない。

参加者：この提言書案で問題ない。

参加者：この提言書案で特に意見はない。

参加者：情報発信・意識改革について、情報開示についても重要なテーマとして議論したと思う。発信して意識改革を促し、情報開示することも重要である。どこかに項目として入れてほしい。人とのつながりによる抑止力効果の向上のところで、誰でも参加できる地域パトロールとあるが、このような取組であればシステムでそこまで費用をかけずに導入できると委員の人から話を聞いた。

参加者：インフラ整備による抑止力向上のところに企業と連携した取組を推進と記載されている。そのなかでいろんなことを試すのであれば、この項目に追記してもいいのでは。

事務局：具体的にどのようなもので、本当に効果があるものなのかを確認する必要がある。費用があまりかからず、効果もあるものであれば検討の余地はあると思う。

参加者：テクノロジーに偏っている気もするが、それはそれでいいと思う。指標になるものがはっきりしていないため、何をターゲットにするのかを明確にしたいと思った。

アドバイザー：それではテーマ3についても大枠については特に問題ないということでもいいか。

(メンバー同意)

アドバイザー：それでは最後に指標等をどうしていくかを確認していきたい。

参加者：どこから知ったのかを検証することはマーケティングの基本になる。区に何か手続きをした区民に対してどこで情報を手に入れたかを確認することは、取り組みやすい事例のひとつだと思う。区のホームページはどこがどう見られているか分かるようになっているのか。

事務局：分析できるようになっているはずで、広報部門に広報支援員を設置している。

参加者：ホームページがどこのページがどれくらい見られているのかの分析をし、その結果を公開してもいいのでは。

参加者：前回の会議を踏まえ、これから考える取組の過程にグループ会議のメンバーが参画し、その結果としてKPIと一緒に考えるプロセスがあってもいいのではと思う。参画と協働では、これからやろうとしていることに区民の意見などを反映させるような、一つでも協働で形にできるといい。

参加者：その意見に賛成で、今回の議論を通して出た中から一つは、この会議の有志でもいいので、行政と一緒に施策立案、実行、検証までやり遂げる意思表示をしてもいいのではないか。行政として負担がかかってしまうのでやめてほしいというのであれば、話は別だが、そうでないのであれば何か一つでも実行すると宣言して締めくくるともいいのではないか。今日から次回までにKPIと施策を具体的には決められない。何か一つ形にすることを決めておけば、年明け以降そこに絞って話し合いができるのではと思う。

ファシリテーター：やっているかどうかの検証と何か一つでも施策立案・実行・検証までやり遂げるという意見が出た。この施策立案・実行・検証までやり遂げるというのは、今回の提言書とは切り離して実際にやらせてもらえないかというニュアンスということではないか。

参加者：そうではない。提言書の中の一つとして実施するという参画の提言だ。

事務局：提言に基づく取組を一緒になって考え、実行していくという方向性を否定するものはない。一方で、区の施策の実施に当たっては、区役所内外の様々な関係者と調整を要するものもあり、また、予算化するには様々なプロセスや考え方が出てくる。その上で、区として、提言の内容を基本計画にどう反映し、具体的な取組についてどのようにタウンフォーラムのメンバーの参画を得て取り組んでいけるかということになると思う。

参加者：関わりを持ち続けるということがポイントだと思っている。

参加者：同意である。提言書の内容が具現化することが一番いいが、そうでなくても、ここで出た方向性から次のステップに行くときに、例えばメーリングリストなどで共有し、途切れないような形をつくるということを提言する。他のステークホルダーの意見が入って、最終的に予算もあって実現しないというのはあり得る話だと思う。関係が途切れないフレームワークを作ろうということである。

参加者：現実的でいいと思う。

参加者：私も賛成で、区が全てをコントロールするのはなかなか難しいと思う。積極的に参画してくれる人を巻き込む仕組みで、企業や他のステークホルダーと取り組める仕掛けを作っていくことが大切だと思った。

参加者：提言したものがこの後どうなったのかが分からないと今後参加する意欲もなくなってしまうので、今後どのように取り組んでいったかが分かることを希望したい。

ファシリテーター：今回提言するどれか一つの取組でも、企画段階からメンバーが関わり、成果指標の設定を含め、実行・検証することで自分たちの提言がどうなったかを見届け、関わっていくような内容を「区民の参画と協働」の項目に盛り込むということではないか。

(メンバー同意)

ファシリテーター：今回各テーマで意見が出たものを反映し、次回の会議で確認してもらう。

4 その他

参加者及び事務局から第7回グループ会議を振り返って感想を述べた。

事務局より次回開催日程及び今後のスケジュール等の確認を行った。

(閉会)

リーダーが第7回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

みなとタウンフォーラム
防災・生活安全グループ（第2グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和5年1月16日（月）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階915会議

メンバー：参加者8名

【内訳】対面参加7名、オンライン参加1名

※途中退出1名

事務局：対応部門関係課長2名（防災課長、危機管理・生活安全担当課長）、
企画課グループ担当2名、サポートメンバー1名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 前回（第7回グループ会議）の振り返り
- 2 第8回グループ会議の進め方について
- 3 提言書案について
- 4 提言式について
- 5 グループ会議全体の振り返り・意見交換
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第7回グループ会議 会議録
2	第8回グループ会議の進め方
3-1	提言書案(テーマ1：区が発信する防災・減災情報の有効活用を促す新たな仕組みづくり)
3-2	提言書案(テーマ2：災害に関する個人の意識改革)
3-3	提言書案(テーマ3：生活安全(防犯)における抑止力向上)
3-4	「提言に当たって(提言書前文)」案
4	提言書案 修正対応表
5	みなとタウンフォーラム提言式について
6	提言式発表用資料

■貸与資料

資料番号	資料名
参考資料1	港区基本計画・港区実施計画
参考資料2	前回提言書(防災・生活安全分野)

■会議要旨

(開会)

リーダーから開会の挨拶を行った。

1 前回(第7回グループ会議)の振り返り(事務局)

事務局より、配布資料1に基づき、前回会議の振り返りを行った。今回(第8回)は、前回会議で示したテーマごとの提言書案について、委員から修正意見等をいただいたため、その修正等の内容が反映されているかの確認作業を行うことを説明した。

2 第8回グループ会議の進め方について

ファシリテーターより、配布資料2に基づき、第8回グループ会議の進め方について説明を行った。

3 提言書案等に関する議論

○提言書案について

(主な意見等)

ファシリテーター：提言書案を確認してほしい。

(メンバー各自が黙読で確認)

ファシリテーター：時間となったので、一人ずつ意見を聞きたい。

参加者：特に修正意見はない。

参加者：問題ない。

参加者：具体的な内容も追加され、よくまとまっていると思う。

参加者：特に問題ないと思う。

参加者：特に問題ないが、防災と安全のフォントを合わせてほしい。

参加者：「タウンフォーラムのメンバーが参画する」などが記載されていて、今までにない提言書になっているため、いいと思う。

参加者：特に修正意見はない。これを機会に今後も継続して関係性をもっていければということと、好みの問題だが区民の参画と協働の④に記載されている創出という言葉がやや責任が伴わないようなニュアンスがある気がする。検討するなどの言葉の方が具体的な感じがする。もう少し次の機会があるというニュアンスで終わりたい。

参加者：検討された状態がいいのか、創出された状態がいいのか。創出の方がいいと思う。

参加者：検討もやらないニュアンスな気がする。次の機会をつくる、持つなどの表現がいいのでは。

参加者：区民の参画と協働に別の項目⑤を作り、実際に実施するというような表現を追加してもいいのでは。④の内容に重複してしまうかもしれないが、より強く伝えるためにはいいと思う。

参加者：具体的な取組を実際に実施することは、提言書ではなく、今後どうするかの議論の中で検討できればと思う。創出でもいいと思う。

参加者：長い文章を二つに分けてほしい。創出という言葉は具体性がないため、学術的には使用しない。

参加者：マーケティングでは需要を創出するなど表現する。機会を創出するとは、今はないけれど、それを掘り起こすという意味だと思う。

参加者：「提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や

効果の検証を区とともに実施する」で区切って、「区とともに継続的な関わりを持つ機会を創出する」に少し言葉を補うことで、独立的に目立つ表現になる。

参加者：区とともに実施すると記載されていれば、十分伝わると思う。

参加者：言葉自体は問題ないと思うが、認識が合わないのであれば、合うように修正してもいいと思う。

参加者：区民の参画と協働の③と④で言いたいことは、公開すること、効果を検証すること、継続的な関与の3つだと思うが、この3つを項目の見出しとしてもいいのではないか。

参加者：文書を区切った上で、「実施する」でいいのではと思った。

ファシリテーター：創出と検討で人によって捉え方が違うのであれば、「実施」という表現にしたほうがいいのではないかと意見が出た。また、文書も「提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する」と「継続的な関わりを持つ機会を創出する」に区切って、後半部分は、「区とともに継続的な関わり方をもつ」とシンプルにまとめるのはどうかと意見が出たがいかがか。

(画面で提言書案を修正しながら各委員が確認)

参加者：いいと思う。

参加者：問題ないと思う。

ファシリテーター：区民の参画と協働の④は、文書を区切ってまとめる。後半部分は④のままで記載するか、別項目⑤としてまとめるか。

参加者：④のままでいいのではないか。

参加者：【テーマ1、2、3共通事項】と記載しているところに、各項目で伝えたいことを追記して見出しにしたらどうか。

参加者：キーポイントを記載するのはいいと思う。書き方は事務局に任せたい。

参加者：②効果的な広報③進捗効果の公開④効果の検証・継続的関与を追記することでどうか。

参加者：②と③は同じではないか。このような追記・仕分けはしないほうがいい。

参加者：見出しで追記したものは削除し、④の後半部分「区とともに継続的な関わり方をもつ」を⑤として最後のまとめとしたらどうか。

(画面で提言書案を修正しながら各委員が確認)

ファシリテーター：区民の参画と協働の②、③は修正せず、④は、「提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが参画し、取組に関わる事業の実施や効果の検証を区とともに実施する」と「継続的な関わりを持つ機会を創出する」に区切って、後半部分は、⑤として「区とともに継続的な関わり方を創出する」とまとめていいか。

(メンバー同意)

参加者：「効果的な広報」と「効果の公開」は別々の項目で問題ないと思う。

参加者：「効果的な広報」と「数字の可視化」のほうがいいと思う。広報と公開は似たような言葉だと思う。

参加者：本来的には②と③は違うものだったので、このままでいいと思う。

ファシリテーター：②と③は違う内容なため、このまま広報と公開でも問題ないのか、広報と公開は似たような表現なため、広報と可視化とするか、いかがか。

参加者：事業などの内容・結果を可視化して、進捗を管理することが重要なのではないか。

参加者：前回までの議論から可視化も公開も重要と考える。

参加者：文章を二つに分けることができるものは、分けてほしい。

コーディネーター：例えばどこか。今から全てその作業・修正をして、それを全員に確認してもらうのは難しい。

参加者：「提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを公開する」と「区の取組状況を「見える化」する」と区切り、後者にはもっと言葉を足して説明すればいいのではないか。

コーディネーター：公開すると見える化で区切ると意見が出たが、いかがか。

参加者：③の文書に物足りなさを感じているのであれば、文書を区切った上で言葉を補足したらいいと思う。

参加者：その作業を全ての文書で行うのは現実的に厳しい。文書はこのままにして、提言式での発表時に詳しく伝えるでもいいのではないか。

参加者：「情報の伝達を検証し、広報の効率化を図る」と表現すればいいのではないか。

参加者：「情報の伝達を検証し、広報の効率化を図る」だと防災・生活安全グループの話ではなく、区全体の話になるため、防災・生活安全グループとしては必要ないのではないか。

参加者：提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」するはどうか。「見える化」は、「公開」でもいいと思う。

参加者：「見える化」がいいと思う。

（画面で提言書案を修正しながら各委員が確認）

コーディネーター：「提言を反映した基本計画の取組の進捗や効果（成果指標、公開可能な数値等）などを測定し、区の取組状況を「見える化」する」でいかがか。

（メンバー同意）

○提言に当たってについて

コーディネーター：「提言に当たって」を確認してほしい。

（メンバー各自が黙読で確認）

コーディネーター：時間となったので、一人ずつ意見を聞きたい。

参加者：冒頭のところで「区民の視点ならでの」と記載されているが、自分たちで「区民の視点ならでは」という言い方はしないと思う。「地域特性を踏まえた課題、意見、危機感などについて具体的な事例を含めた充実した議論が行われた」と記載してはどうか。

参加者：最後の提言の実現に向けた想いのところは、もう少し考えた方がいいと思う。

参加者：最後の提言の実現に向けた想いのところで、願っているという表現ではなく、もっと断定的な表現がいいと思う。

参加者：1文1文が長いので、区切れるところは区切ってほしい。読みやすさという観点から意見しているため、修正しなくてもいいが、例えば、「区職員への質疑応答も活発に実施され、防災・生活安全（防犯）に関して、既に多くの施策が検討され、情報が整備されていることも改めて認識することができた反面、そうした施策等が区民一人ひとりに浸透していないといったことも明らかになりました」を「区職員への質疑応答も活発に実施され、防災・生活安全（防犯）に関して、既に多くの施策が検討され、情報が整備されていることも改めて認識することができた。その反面、そうした施策等が区民一人ひとりに浸透していないといったことも明らかになった」と区切ったらいいのではないか。内容は特に問題ない。

コーディネーター：この部分については見直したい。

参加者：「生活安全(防犯)における抑止力向上」の「犯罪による被害の防止、抑止力向上のための施

策の検討」の表現として、犯罪による被害の防止は施策の検討にかかってくるのか。

ファシリテーター：施策の検討にかかってくる。

参加者：前半部分「犯罪による被害の防止」は何か議論したか。

参加者：オレオレ詐欺を防ぐために電話へ注意喚起するシールを貼るなどの議論をしたと思う。このままでもいいのではないか。

参加者：特にない。

参加者：防災は二つのテーマを記載しているので、各冒頭に「一つ目は」「二つ目は」などの文言を追加してもいいのかなと思う。また、文書の内容が変わるところで改行してもいいのかなと思う。修正できることは時間的に限られていると思うので、今あるもので見やすくしていければと思う。

(画面で「提言に当たって」を修正しながら各委員が確認)

ファシリテーター：冒頭のところで「区民の視点ならではの」と記載しているところを「地域特性を踏まえた課題、意見、危機感などについて具体的な事例を含めた充実した議論が行われた」と修正することについて、特に異論ないか。

(メンバー異論なし)

ファシリテーター：文書を区切ることは、今すぐには難しいため、全体的に事務局で再度確認する。防災は二つのテーマについて記載しているため、「一つ目は」「二つ目は」という言葉を追記する。テーマ3の「犯罪による被害の防止」は削除するか。

参加者：削除せずそのまま残していいと思う。

(メンバー異論なし)

ファシリテーター：最後の「提言の実現に向けた想い」の部分は、具体的な修正案などあるか。

参加者：具体的にどういうことをするかを記載してはどうか。議論の中で勉強会を立ち上げるや、有志が集まってこの先も継続的に区政と関わるなどの意見が出たと思う。

参加者：「みなとタウンフォーラムでの議論がこの提案書をまとめ上げたことで終わりではなく、有志などを含め、めざすまちの実現に向けて議論を進めていく」としてはどうか。

ファシリテーター：他はどうか。

参加者：議論ではなく、つながり続けると記載してはどうか。

参加者：提言書案の「区民の参画と協働」の⑤と同じ表現でいいのではないか。「提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもっていく」ではどうか。これが一番言いたいこと。

ファシリテーター：「この議論が提言書では終わりではなく、提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもつ」でいいか。

参加者：「この議論がこの提言書で終わりではなく、今後も勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論もでた。」と追記してもいいのでは。

ファシリテーター：「この議論がこの提言書で終わりではなく、今後も勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論もでた。」を追記し、「この議論が提言書では終わりではなく、提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもつ」とまとめるのはいかがか。

参加者：「議論がでた」で終わりか。その補足もあったほうがいいのでは。

参加者：「議論がでた。これを受けて、提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもつ」ではどうか。

参加者：「この議論がこの提言書では終わりではなく、今後の勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論がでた。提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもっていく」でどうか。

参加者：それでいいと思う。

（画面で「提言に当たって」を修正しながら各委員が確認）

ファシリテーター：「この議論がこの提言書では終わりではなく、今後の勉強会の立ち上げ等で区政とつながり続けられるような議論がでた。提言の実現に向けて、タウンフォーラムのメンバーが継続的に関わりをもっていく」でいいか。

（メンバー同意）

ファシリテーター：これまでの内容を反映させ、最終的なものはリーダーに確認してもらい、最終確定する。

（メンバー了解）

○提言式について

事務局から、令和5年3月23日に開催する提言式について、事務連絡を行い、当日使用する資料の確定版は、今後事務局がリーダー、サブリーダーと調整することで了承を得た。

また、当日の第2グループ提言書の発表者については、メンバーの同意を得てリーダーが担当することとなった。

○その他意見交換

今後は、有志で集まり、具体的な提案等を検討し、必要に応じて区に相談することとする。

4 その他

参加者及び事務局から第8回グループ会議を振り返って感想を述べた。

（閉会）

リーダーが第8回グループ会議の総括をした後、閉会を告げ終了。

以上

